

# 平成28年度事業報告書

自 平成28年4月1日  
至 平成29年3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

# 目次

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	9
3. 人材育成事業	15
4. 啓発普及事業	27
5. 収益事業	49
6. 組織の運営	51

## はじめに

国連は、2016年1月から持続可能な開発目標17項目（SDG）を掲げ、2030年までの目標達成に向けて具体的な活動を始動させている。オイスカは国際協力NGOとして、このSDGに掲げられた目標にも沿った活動を今日まで展開して来ており、その活動内容の更なる充実が国内外から求められているところである。一方で、5月にはスリランカでの集中豪雨による土砂崩れ被害、さらには、バングラデシュにおいてサイクロン被害を避けるため、住民30万人が避難を余儀なくされている。このように、異常気象による自然災害が頻繁に発生する事態に至り、地球環境問題に対し世界各国が本気で取り組む時期に来ている。しかしながら、世界の趨勢は自国優先主義の傾向を強め、人類の進むべき方向性が地球環境保全とは逆行しているような印象を受ける。このような世界情勢の中、オイスカの国内における海岸林再生プロジェクトも、本格的にクロマツ植栽が始まり、今年で4年目を迎える。去る、5月20日には第4回海岸林再生プロジェクト植樹祭が開催され、地元住民をはじめ支援者500名以上が植林活動に参加した。平成28年度は11ヘクタール、5万6千本のクロマツが地元住民をはじめ、一般ボランティアの協力によって植林された。これまでの植栽では約95%の活着率を維持している。オイスカが過去半世紀以上にわたって取り組んできた環境保全活動は、生物多様性を育むと同時に防災・減災的な役割を担い、持続可能な地域社会の活性化を図る役割も果たしているといえよう。そして、オイスカに対する海外・国内からの期待の声は日々高まっており、その期待に応えられるよう、限られた資源の中で活動の効率化及び活性化に取り組んでいきたい。

平成28年度も10月に、16カ国から51名の参加者を得て「環境教育を基盤とした青少年のふるさとづくりに関する国際会議」とオイスカ国際活動促進議員連盟との共催で、東京において「国際協力の日の集い」を開催、当日は全国から約250名が参加した。さらに、第5回目となるマラ公団・オイスカビジネスフォーラムがマレーシア・トレンガヌ州で開催され、フォーラムにはオイスカの会員企業を中心に日本、ブルネイ、マレーシアなどから約200名が参加した。

さて、平成28年度は、①海外開発協力事業、アジア太平洋地域を中心に11カ国において植林等の環境保全活動や、現地の研修センターを拠点としての農業を通じた人材育成を実施した。また、NGO連携無償資金によるミャンマー、インドネシア、フィリピンでの3件に加え、本年度よりタイ案件への支援を受けることとなった。一方で、ミャンマー案件が終了した。他の2件は3年目を迎え、これまで育成した人材の活躍、ネットワークを活かした現地への裨益効果が改めて認識される結果となっている。②「子供

の森」計画事業は 36 の国と地域において、児童・生徒を対象に、体験型環境教育プログラムの実施と防災・減災につながる植林活動等の環境保全への取り組みを行った。また、6 か国から参加校の生徒代表 14 名を招聘し、「子ども親善大使事業」として、日本の支援者への報告会、交流プログラム等を実施した。③人材育成事業では、当法人の発足当初から継続的に取り組んでいる開発途上国からの研修員受け入れの通常研修事業に加え、沖縄をはじめとする農業・工業技能実習生も 282 名に増え、受け入れ企業・農家からの評価も高く、受入希望が増大している。④啓発普及事業では、全国組織を通じての様々な啓発活動のほか、海岸林再生プロジェクト 10 年計画も、その 6 年目に入り、次年度以降植栽のためのクロマツ苗木の育苗も、被災地住民と一緒にしている。そのほか、海外ボランティア派遣、富士山の森づくり、東京フォーラム等の開催・各種国際会議への参加、シンポジウム、セミナー等を当初の予定通り実施することができた。

平成 28 年度は、前年度を上回る当初の予算規模、事業計画に沿った諸々の事業を恙なく実施することができた。財政的には改善の兆しが見え始めていることをご報告し、賛助会員の皆様をはじめ、ご協力いただいた多くの関係者各位に厚く御礼申し上げますとともに、オイスカ活動へのさらなるご支援とご指導を賜りますよう、お願い致します。

平成 29 年 6 月

公益財団法人オイスカ  
理事長 中野利弘

## 1. 海外開発協力事業

### 総 括

数年来贈与契約を交わし支援を受けている外務省の日本 NGO 連携無償資金協力では、引き続きミャンマー、インドネシア、フィリピンでの開発協力案件に加え、本年度よりタイ案件への支援も受けることとなった。一足早くスタートしたミャンマー案件は、家畜肥育の普及、灌漑水路の修繕など地域への波及効果を着実に残し3年間の事業期間を終了した。インドネシアとフィリピンの2案件は3年目を迎え、インドネシアについては日本からの専門家にもお墨付きをいただくほど農村主婦グループの菓子製造技術が向上したとの評価を得た。フィリピンについては大規模な植林と生計向上策による台風被害からの復興支援が地域に浸透し、支援した被災者の方々の収入が上向いているという声も聞かれるようになった。いずれも持続可能な産業開発に向けた取り組みの一環となっている。

自然再生事業については、長年の支援企業からの社会貢献による実績が積み重ねられ失われた環境が取り戻されつつある一方で、それを保全するためには支援している地域住民の生計の向上を図ることが必要不可欠であることが明らかになってきている。こうした観点から植林地の管理作業に加え、間接的に生計向上を支える代替生計手段の開発にも力を入れている。

### 1. プロジェクトの実施成果

#### <自然再生・保全活動>

「ふるさとづくり」の一助となるようサンゴの保全や植林活動といった海中から山上までの切れ目ない自然再生・保全活動を実施し、加えて人々の生業を支えるとともに、次世代の子どもたちへのよりよい環境を残すことも視野に入れて本事業を行った。今年度も、フィジー、パプアニューギニア、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ等の各国で活動を実施した。

#### 1. サンゴ礁保全プロジェクト（フィジー）

観光地としても認知度の高いフィジーにおける特徴的な活動の一つとして推進してきたサンゴ礁保全プロジェクトは、これまで継続的にサンゴ片の定植、天敵であるオニヒトデの除去や共生関係の高い大シャコガイの移設などを行ってきた。MPA（Marine Protected Area・海洋保護区）となっている活動場所を中心に行ってきたが、昨年度に引き続き近隣のリゾートホテルとの協働による保全活動も実施した。地域の自治体の長らを招いてセミナーを開催し、政府がMPAを抱える自治体にどのような支援をしているのか学ぶ場を設け、今後を考える際の一助とするような取り組みも実施した。企業支援による活動が10周年を機に終了し、今後は自己資金での活動を強いられるが、該当地域の住民の意識の啓発を引き続き行っていく予定である。

#### 2. マングローブ植林プロジェクト（インドネシア、バングラデシュ等、5カ国）

平成28年度も、インドネシア、タイ、フィリピン、バングラデシュ、そしてフィジーの5カ国において、合計で約293ヘクタール約100万本に及ぶマングローブ植林活動を行った。

沿岸住民を襲う海の脅威が年々高まってきている。それは世界各地で頻発するようになった。巨大台風による津波や海面上昇による洪水だけでなく、地震の増加についても温暖化による気候変動が引き金となっていると説く研究者が増えてきている。この説が正しければ、今後も地震とそれに伴う津波も増え、沿岸住民に災害をもたらすリスクが増えていくことが予想される。

それゆえに減災効果としてのマングローブや海岸林はますます注目を浴びることになるであろう。しかし、これまでの毎年の報告で述べているように、実際の活動現場は、予想を超える異常気象の連続であり、常に戦いを強いられている。そして、今後とも苦戦を強いられることは残念ながら想像に難くない。平和裏にマングローブの森ができることはないであろう。ただ、それでも、この戦いに挑む意義は大きいと考える。住民を守るため、地球を守るための挑戦を続けていきたい。

各国での活動の多くは、東京海上日動火災保険、住友化学などの企業の他、UA ゼンセンや住友化学労組を始めとした労働組合の支援により支えられている。こうした支援団体は毎年ツアーを組み、現場で植林活動を行っている。平成 28 年度も多数実施されたが、ツアーでは、現地住民や子供たちとの交流プログラムも含まれており、両者の絆を深め、活動の継続促進につながっている。

### 3. 北部タイ森林保全再生・生計向上プロジェクト（タイ）

本年は外務省 NGO 連携無償資金協力の支援を受けてタイ北部での森林保全・再生並びに生計向上プロジェクトを開始した。タイ北部では理解のない山岳民族などによる森林の違法伐採が絶えず、保水力の低下した山岳地帯からモンスーン時の降雨が想定を超えて流出し、結果としてバンコク近郊など下流域での洪水を引き起こす結果となっている。

タイ南部ラノーンでの住民を主体として取り組んできたコミュニティフォレスト再生プロジェクトをモデルケースとして、これまで数件の企業、会員組織からの支援を受けて北部チェンライ県チェンコン地域で実施してきたが、それを拡大・発展させる形でプロジェクトを策定。チェンライ県内の 3 つの村を対象村とし、本年度は植林の他、当地で頻発する山火事に対しての消火訓練や啓発ワークショップの開催、また養蜂・養豚・養魚・山菜栽培などの生計向上プロジェクトを行なった。森林保全と並行して、その環境を活かす形での生計向上プログラムを取り入れることで、住民が自分たちの村の自然を長く守っていく気持ちとそのための仕組みを作っていく。

### <海外人材育成>

オイスカ独自の、指導者と研修生が寝食を共にしながら規律を重んじた農業研修をアジア太平洋地域を中心とした各国の研修センターで実施している本事業であるが、平成 28 年度も、全 8 カ国で合計 670 名ほどの農村青年の人材育成活動を行った。農村地域のリーダーとして研修後も活躍できるよう、技術だけでなく精神的に自立した人材の育成に努め、研修修了生たちは各国で高い評価を得ている。

インドネシアにおいてはジャワ島に 2 か所の研修センターを有し、一方の中部ジャワ州にあるカラングニアル研修センターはオイスカでの研修を終えた OB 達のみによって運営されている。机上のみでなく、実技や体力測定も組み入れた研修生の選考を行い、厳しい試験を通過したもののみを受け入れ 9 か月ほどの農業、環境保全関係の実技を中心とした研修期間を過ごしている。この他にも地元や中部ジャワ州以外にも遠くはカリマンタン島などからも高校生を中心とした数か月間の短期研修を実施し好評である。

また、ミャンマーにおいては、アウンサンスーチー国家顧問とオイスカインターナショナル総裁との会談に際し、オイスカの推進する有機農業への期待が示されたことなども追い風となり、国内外からの視察、協力依頼が増加傾向にある。こうした中、マンダレー管内の第 2 研修センターの開所に向けた準備が着々と進められ、より広範囲な期待に応えられるような体制を構築しつつある。研修修了生も政府や他の企業、団体において活躍するような有為な人材も輩出しており、国家の青年育成の一翼を担っているといえる。

### <持続可能な産業の開発／促進活動>

農村地域の開発、環境保全には、そうした活動がいかに関の生計向上につながるかがポイントとなる。そのため「ふるさと」づくりにおける持続可能な産業の育成は環境保全や開発と表裏一体のものである。いかに生活環境の改善が図られようとも食の供給を基礎とする生計維持の機能が途絶えては、社会インフラとしての環境改善の持続性は見込めない。多様化する現代においてはニーズもさまざまであり、生産者と支援者や消費者を結びつける役割としてのわれわれのような NGO の存在は、お互いのニーズを把握している点において優位に働く。こうしたマッチングを助けることにより開発途上地域の人々に裨益する産業を逆に生み出していくような動きが望まれている。本年度もいくつかの試みが各国で進められた。そのうちの二つを紹介する。

- 主婦の能力強化と地域の生活改善・生計向上支援事業（インドネシア）

インドネシア国内でも開発から取り残されているとされる西ジャワ州スカブミ県チクンバル郡の農村の主婦を対象として、その組織化とグループへの家庭菜園指導やその生産物を活用した食品加工技術を習得し、販売可能な製品として生産してもらうことにより家庭の生計向上に資することを目指し、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力にて実施した。

活動 2 年目となった 28 年度は、例年に比べ高い降雨量と日照不足の雨期が長引き、農業生産活動を十分に行うことができなかつたものの、定期的なモニタリングの成果もあり、受益者である主婦たちによる継続的な栽培の実施の割合はほぼ 100% となった。さらに収穫した農産物を利用した食品加工品の生産・販売では、生活改善支援の効果もあり、健康にも配慮した材料を使用するなど受益者の意識の変化ももたらしている。主婦たちのコミュニティー内でのつながりと活動によって得た自信や積極性は、今後の持続的な動きに繋がるのが期待できる。

- 農村部の農業・畜産事業の振興支援を通じた持続可能な生計向上事業（ミャンマー）

2014 年 3 月より 3 年計画で実施してきた日本 NGO 連携無償資金協力による当事業は 2017 年 3 月に計画通り終了した。この事業は、ミャンマー国内でも特に厳しい環境条件が広がるマグウェ地域パコック県イエサジョ郡の農村地域の住民を対象に、住民の生計手段である農業の生産性向上やその他の収益源である家畜飼育支援を通じて、現在の貧困状態から脱却する事を目指しました。農業分野の支援においては、郡内で修理の必要な 3 カ所の農業灌漑施設の修繕を実施し、それぞれ対象地の農業用水の利便性が向上したと同時に、周辺地域の農民を対象にオイスカ研修センターにて農業有益技術の研修を実施しました。研修後はそれぞれが学んだ技術の実践に努め、センターも定期的なモニタリング指導をすることで、栽培品目の多様化等の生計向上に繋がる等の成果が見られている。また、農業をする為の条件が整わない貧困住民には、養豚や養鶏の家畜支援を実施した。研修を通じて家畜飼養の指導を実施した後、それぞれに子豚やヒヨコの配給、更には簡易豚舎、簡易鶏舎の資材を提供したが、2 年目には、寒さや野犬被害により、一部受益者のヒヨコが死亡するなどした。その後、それらを教訓にモニタリングや重点的な指導に努め、その後の被害は軽減された。土地等を持たない住民にとっては、生計手段として家畜飼養は極めて重要で、その後のモニタリングでは、この事業ではこの地域に適応した品種、適切な管理等を組み合わせたことが成果につながっている事が確認された。事業修了後は、大半の受益者が自助努力でこの事業を継続していく意向を示しており、今後も持続的な活動が続いていくようオイスカもフォローを続けていく。

### <災害支援>

- 災害に強い、森に守られた地域社会づくりプロジェクト（フィリピン）

2013 年 11 月にフィリピンを襲った史上最大級のスーパー台風ハイエンは、フィリピン

中部のヴィサヤス地方を中心に 7,000 人以上の死者、行方不明者を出す惨事となった。被災地のひとつパナイ島イロイロ州アホイでは、水源林のほとんどが破壊され、もうひとつの被災地レイテ島の東岸には、津波の軽減に貢献するマングローブ林や海岸林の形成が不十分であったことが被害を拡大させていたことが分かった。そこで、本事業では、日本 NGO 連携無償資金協力を活用しパナイ島イロイロ州アホイにおいて、水源林の回復のための森林再生を行うとともに、住民の生業である農業を災害に強く持続可能な産業とするための、養蜂、アヒル飼育・卵加工等の住民収入向上支援を実施する。一方、レイテ島（レイテ州）東岸では、マングローブや沿岸林の植林、そして、モデルファームを設置し、被災住民への長期・短期の有機農業研修を通して、災害に負けない農業の基盤を作る活動に取り組んでいる。2 年目の活動となった平成 28 年度も、パナイ島イロイロ州アホイでは、177 ヘクタール、31,177 本、レイテ島では 5.9 ヘクタール、63,000 本のマングローブや海岸林の植林を行った。加えて、両地域で農業支援も実施した。

### <調査研究・専門家・指導員派遣>

#### 1. フィリピン・養蚕普及プロジェクト業務調整

期 間：平成 28 年 6 月 28 日～ 7 月 2 日

派遣国：フィリピン

派遣者：森田 章

内 容：

1995 年からネグロス島で実施している養蚕普及プロジェクトは、開始から 20 年以上経過し、当時日本からの中古品として供与した製糸機材や蚕具はすでに老朽化の域を超え耐用年数を裕に上回る期間にわたって活用されてきた。それだけにいつ故障してもおかしくない状況で、機材の更新、また地域の養蚕農家の現状と今後の見通しについて視察、並びに現地責任者と共有し、打開策を探った。

過去に他国、他地域での成功事例が皆無に等しいことからフィリピン国内外を問わず養蚕事業への関心は高く、視察者も絶え間なく訪れている。しかし大型の海外からの支援の導入も一段落し、今後の成長には戦略の練り直しが不可欠であることから、他国で活用されている製糸機材の導入の検討などを行った。またデザイナーなどによる製品化を促し、付加価値を付けての出荷、販売についても引き続き検討していくことになった。

#### 2. バングラデシュ・プロジェクトフォローアップ調査

期 間：平成 29 年 2 月 13 日～ 2 月 20 日

派遣国：バングラデシュ

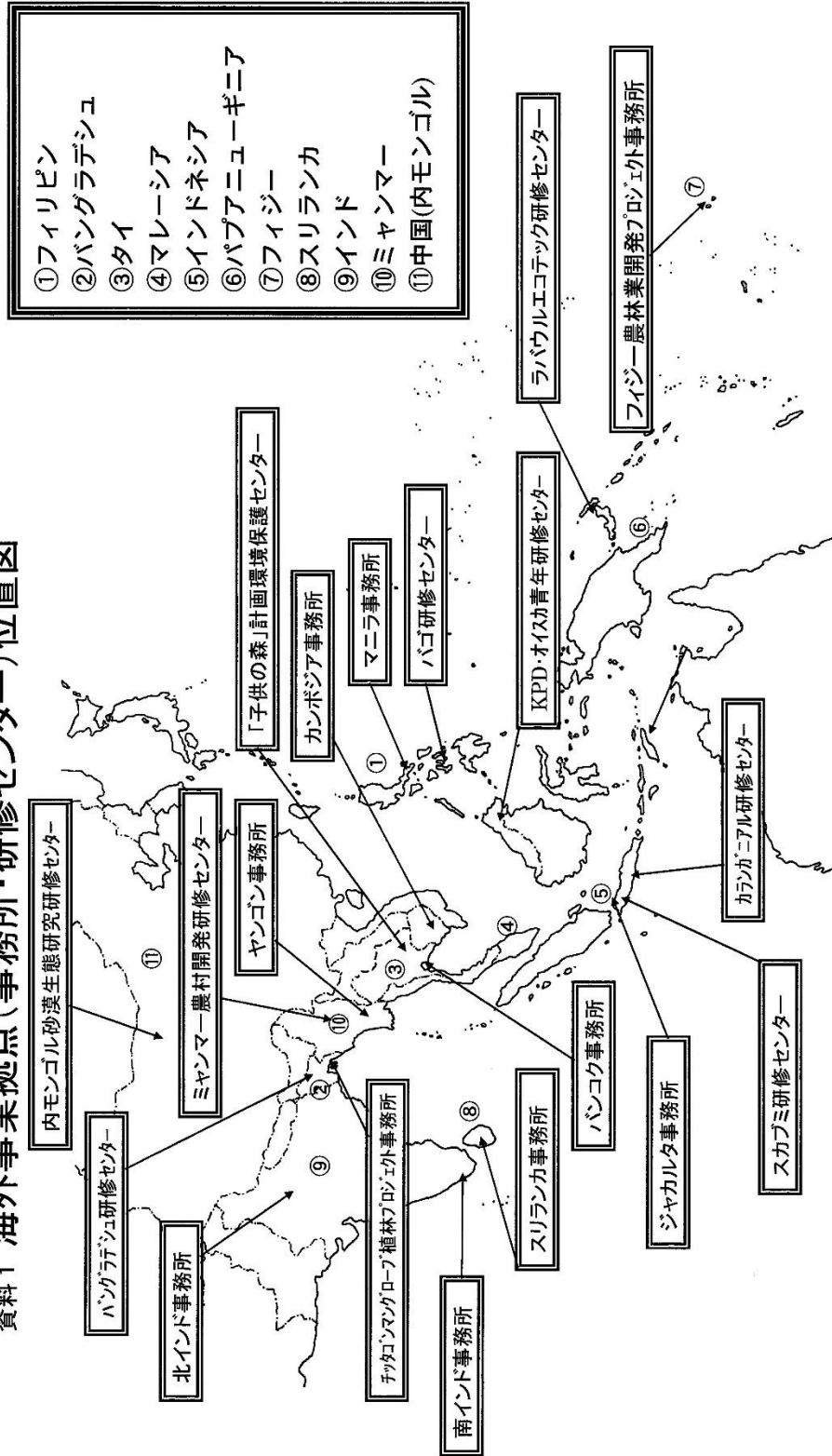
派遣者：小杉辰雄

内 容：

昨年 7 月に発生したダッカ邦人テロ事件後、治安の悪化から現地駐在員を帰国させざるを得ない状況となっていたが、緊急性の高い事業を中心に現地スタッフへの引継ぎ等の必要があり出張した。自立へ向けての管理作業を担えるスタッフの育成などの課題に対処する方策を関係者を交えて協議し、駐在員が欠けていても透明性の高い運営が継続できるよう指導を実施した。また、現地オイスカ組織を巻き込んだ運営についても布石を敷くべく準備した。今後も必要に応じて出張により対応することを確認した。



資料1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



資料2 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
バングラデシュ		
1	小杉 辰雄	農業技術指導・運営管理
インドネシア		
2	中垣 豊	農業技術指導・運営管理
3	中垣 アダ	調整・渉外
ミャンマー		
4	木附 文化	運営管理
5	水口 知香	調整・渉外
フィリピン		
6	渡辺 重美	運営管理
7	石橋 幸裕	運営管理
タイ		
8	春日 智実	運営管理
9	田野井智之	運営管理
パプアニューギニア		
10	荏原 美知勝	農業技術指導・調整
フィジー		
11	ジョelson マツンハイ	調整・渉外
12	ロダ ガワン	調整・渉外
13	清水 和雄	運営管理

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国名	センター・事務所	現地スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	11	9
2		チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト事務所	4	-
1	インド	南インド事務所	28	-
2		北インド事務所	8	-
1	インドネシア	スカブミ研修センター	70	205
2		カラングニアル研修センター	11	158
3		ジャカルタ事務所	2	-
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	16	18
1	ミャンマー	ミャンマー農林業研修センター	32	23
2		ヤンゴン事務所	1	-
1	フィリピン	マニラ事務所	3	-
2		バゴ研修センター	20	15
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	2	-
4		パラワン研修センター	2	1
5		ダバオ研修センター	5	8
6		ルクバン研修センター	2	76
7		アブラ農林業研修センター	3	14
8		ヌエバエシハ研修センター	7	12
1	スリランカ	スリランカ事務所	7	-
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト（チェンライ）	4	-
2		マングローブ・プロジェクト（ラノー）	1	-
3		「子供の森」計画環境保護センター（スリン）	1	-
4		「子供の森」計画（コンケン）	1	-
5		バンコク事務所	5	-
1	カンボジア	カンボジア事務所	3	2
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	7	29
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	18	98
1	中華人民共和国	内モンゴル砂漠生態研究研修センター	5	-
合計			279	668

\*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ



## 2. 「子供の森」計画事業

### 1. 総括

「子供の森」計画（以下、CFP）の事業開始 25 年目を迎えた平成 28 年度は、25 周年を記念した式典を、事業がスタートした国であるフィリピンで行うなど、これまでの活動成果を共有するとともに、今後のさらなる展開に向けて、気持ちを新たにすする年となった。参加する国や地域が広がる中、希望や要望も多様になっている。各国各地域ではこれまでの実践的な活動を継続的に実施するとともに、青少年対象の植林活動や環境教育活動のみではなく、地域住民対象のセミナーの開催や指導者層の育成などにも注力。各国各地域のニーズに応えながら、活動が地域に根差し、支えられて発展していくような仕組みづくりにも重きを置いて活動を展開した。また生物多様性保全の取り組みについても継続して意識づけを強化するとともに、近年世界各地で重要課題となっている自然災害に対し、防災・減災につながる植林活動の意識啓発の促進、また有機農業やリサイクル活動など自然と共生した豊かな“ふるさと”を守り育む取り組みを拡げることができた。

その中で平成 28 年度は特に現地の要望が大きく現地活動資金が不足している、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、中国の国々で重点的に事業を支援・展開を行い、各国各地域のニーズに基づき子どもたちとともに森づくり活動や環境教育活動、環境保全活動の支援を行った。またその他の国においても、情報共有・連携を行い各国の活動のさらなる継続・発展に努めた。

また、これらの活動国の要望を支えるために日本国内においての啓発活動や情報提供・交流活動等により日本と現地をつなぐ活動にも力を入れて、海外からの子ども招聘を通じた交流事業や報告会、カレンダー作成などの啓発資料作成・配付を実施した。さらに、2016 年は「国連持続可能な開発目標（SDGs）」のスタート年でもあり、日本国内においても持続可能な開発に向けた教育について、学校や社会教育分野における認識や要望が高くなっている。このため、世界各国の子どもたちの取り組みを、SDGs へ向けた効果的具体的事例として再定義し発信するとともに、日本の子どもたちに対しても交流事業などを通じて、SDGs へ向けて共に地球課題に取り組み行動する意欲を促進しながら、国際理解及び環境教育の機会を提供した。

平成 28 年度（2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日）の「子供の森」計画支援口数による支援（5,774 口）や企業・団体・個人などからの寄附や募金やベルマークなど合わせた寄附金総額は 36,349,114 円、さらに企業及び個人からいただいたグローバル「子供の森」基金の増資額は 9,200 円となった。

### 2. 各プロジェクト実施成果

#### ① 各国で継続的に森づくりや環境教育を着実に実施。森づくりや環境教育活動を深め、子どもたちによる豊かな“ふるさとづくり”活動の促進

各国各地域で、郷土樹種や栄養源になる果樹などの植林・管理活動を中心とした森づくりを継続するとともに、自然がもたらしてくれるさまざまな恩恵について学びながら環境教育を実施。2016 年にもフィジーのサイクロンやスリランカの洪水など、活動地での自然災害による被害が起きる中、改めて CFP 活動の必要性を実感するとともに、地域を巻き込みながら防災・減災につながる植林への意識啓発を促進することができた。

事業開始から 25 年、長年活動に取り組んでいる地域では、子どもたちと共に苗木が森へと育ち、木陰をつくり、心地よい環境をもたらしている。各地で動植物や水源の回復などの報告も聞かれるなど、本来の自然と共生した豊かな“ふるさと”を守り育む取り組みとして、少しずつであるが成果も見られている。また、町中でのラリーやポスターコンクール、環境セミナーでの発表など、子どもたち自身がメッセンジャーとして、地域に環境保全の重要性について発信する活動にも力を入れ、子どもたちが発信することで大きなインパクトを与

えながら地域の環境意識を促進する取り組みを進めた。子どもたちが主体的に関わることで、子どもたちの間にも積極性が見られるようになり、自分たちの地域は自分たちで守ろうという意識が少しずつ育ってきている。

平成 21 年より国連生物多様性条約事務局と基本協約を結び参画促進協力をしている、同事務局が呼び掛ける「グリーンウェイブ」（国連生物多様性の日を中心に世界中の青少年が一斉に植林等の生物多様性を保全もしくは学習するアクションを起こす活動）には、平成 28 年度も「子供の森」計画参加校を中心に各国から積極的に参加し、オイスカ全体として 362 の学校や団体が参加し、オイスカがグリーンウェイブに参画をはじめてからの参加者累計が 20 カ国約 67,000 人となった。

### ② 各国で子どもたち自身が共に学び合うワークショップや指導者育成を促進

各地で活動の促進を重ねるごとに、それぞれの活動の成果や経験を共有しながら、ともに学び協力・連携しあうことが、今後のプロジェクトの発展には不可欠となってきている。そこで各国各地で複数の学校の子どもたちを一同に集め共に学び合うワークショップや、複数の学校教員や行政関係者を集めた指導対象のセミナー、また本プロジェクトの各地の運営を担うコーディネーターの育成のためのワークショップなどを行った。一例としては、平成 28 年 12 月 25 日～29 日、ミャンマーの農村開発研修センターにて、周辺学校の児童生徒 60 名を集めたエコキャンプを実施。子ども親善大使として訪日経験のある 6 名をリーダーに、グループごとにセンターでの農業や畜産、食品加工を体験。また環境に関する講義や、近くの山での自然観察などを行い、森と生物の多様性に深い関わりがあることを学習するなど、実践型の学習を通じて、子どもたち及び指導者たちが自ら学びそして他者と経験や知識を共有しあう機会とすることができた。このようなワークショップやセミナーは、他にもインドネシア、モンゴル、フィリピン、スリランカ、タイなどの国々でも実施した。

また国を超えた学びの場として、平成 28 年 8 月には、CFP25 周年式典後、フィリピン・ヌエバビスカヤ州において、インターナショナルコーディネーター研修を実施。インドネシア、パプアニューギニア、フィリピン国内 8 地域のコーディネーターが集まり、各国の取り組みを共有した後、外部講師による環境ワークショップや講義、CFP 校の視察などを行い、活動の手法や今後の展開について議論を行った。

### ③ 6 カ国から児童生徒代表を招聘し「子ども親善大使事業」を実施

愛・地球博成果継承事業の助成金を活用しながら、パプアニューギニア、フィリピン、モンゴル、ミャンマー、フィジー、インドネシアの 6 カ国から「子供の森」計画に取り組んでいる小中学生（各国 2～3 名）及び環境保全活動の指導者（各国 1～2 名）計 23 名を 3 つのグループに分け日本へ招聘し、「子供の森」計画の活動成果の共有や、日本の子どもたちとの交流事業、そして日本の環境保全の取り組み等の学習を行った。

#### <招聘日程・プログラム実施場所>

第一回目：フィリピン、パプアニューギニア（2016 年 6 月 30 日～7 月 9 日）

場所：東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、神奈川県

第二回目：モンゴル、ミャンマー（2016 年 9 月 14 日～9 月 24 日）

場所：東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、奈良県

第三回目：フィジー・インドネシア（2016 年 11 月 16 日～11 月 27 日）

場所：東京都、沖縄県

28 年度は、異なる地域の 2 カ国を組み合わせながら 3 回に分けて交流事業を実施。初めての実施場所となった沖縄においては、島国であるインドネシアとフィジーから子どもたちを招聘し、背景は違えども共通点のある地域に住む子どもたちが、互いの取り組みについてより深く理解し、具体的な活動について意見を出し合うなど連帯感を強めることができ

た。また、招聘した各国の子どもたちにとっても、自然と共生しながら培われてきた日本の文化や伝統、その根底にある環境への意識に触れ、持続可能な社会に向けた環境保全の技術など学んだことを帰国後周囲へ報告するとともに、率先してゴミの分別やリサイクル活動など日本の取り組みを参考とした行動を自分の学校で行うなど、学びが行動へと育っている。

#### ④ 広報・啓発活動

平成 28 年度は、「子供の森」計画事業開始 25 周年ということもあり、これまでの成果を重視した広報物の作成等に特に力を入れた。前年に引き続き、ラブグリーンニュースの後期発行分を 2017 年 1 月開始のカレンダーの発行に替える試みも行い、内容もブラッシュアップすることで、支援者からも各国の活動を身近に感じることができると好評であった。

活動資金協力の呼びかけとしては、特に古本を通じた寄附の取り組みが具体的なアクション事例として効果を発揮してきている。28 年度からバリューブックスが運営するオンラインサイトでの申し込みも受け付けることが出来るようになり、より多くの方に気軽に参加いただいている。企業や労働組合等の組織単位での参画も増えてきており、オイスカの全国支部等との連携した働きかけにさらに力を入れていきたい。

また、国連等の国際機関や他団体との連携を強化・深化させるため、国連関連機関の呼びかけるグリーンウェイブ活動や国際森林デーの記念行事の協働実施や同機関への情報発信を行った。

### 3. 平成 28 年度「子供の森」計画 国別植林実績

No.	活動実施国名	2016 年度		1991 年～ 累積		参加校数 総計	2016 年 新規 校数
		植林本数	植林面積 (ha)	累計本数	累計面積 (ha)		
1	バングラデシュ	1,400	1.40	81,974	67.02	226	2
2	中国(内モンゴル)	55,800	13.00	89,110	30.10	14	1
3	カンボジア	910	1.45	4,970	8.23	20	4
4	フィジー	2,858	2.51	783,149	571.08	61	2
5	インド	21,358	59.30	1,726,444	1183.61	1,954	2
6	インドネシア	34,808	21.36	340,569	482.63	371	6
7	マレーシア	1,265	0.32	89,090	79.95	220	1
8	ミャンマー	553	0.14	28,140	12.86	68	1
9	フィリピン	18,352	4.82	2,808,713	1057.26	1,087	10
10	パプアニューギニア	950	0.60	77,800	49.58	69	6
11	スリランカ	1,507	1.21	510,471	427.60	330	10
12	タイ	6,631	7.98	598,626	409.52	205	5
	*その他の国・地域	6,087	2.25	130,438	102.73	266	7
合計		152,479	116.34	7,269,494	4482.17	4,891	57

累計実績：36 の国と地域の 4,891 校で実施

※上記データは 2017 年 3 月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計値

※ その他の国・地域：

アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム

#### 4. 調査研究、専門家、指導員派遣

1)

期 間：平成 28 年 5 月 16 日～5 月 22 日

派遣国：スリランカ

派遣者：諸江葉月

内 容：学校建設事業校舎完成式対応、CFP 業務調整等

2)

期 間：平成 28 年 5 月 21 日～5 月 27 日

派遣国：モンゴル

派遣者：藤井啓介

内 容：オイスカモンゴル総局活動予定地調査、10 周年行事調整、CFP 活動実施  
(グリーンウェイブ含む) 視察、CFP 業務調整等

3)

期 間：平成 28 年 6 月 4 日～6 月 12 日

派遣国：インド

派遣者：森田章

内 容：インド開発団開発地フォローアップ、クリーンガンガプロジェクト形成検討、CFP 業務調整等

4)

期 間：平成 28 年 6 月 8 日～6 月 18 日

派遣国：フィリピン

派遣者：諸江葉月

内 容：電力総連第 19 回人間と地球のふれあいセミナー対応、CFP 業務調整等

5)

期 間：平成 28 年 8 月 14 日～8 月 22 日

派遣国：フィリピン

派遣者：中野良子、永石安明、林久美子、菅原弘誠、マリア・グラゼン・アセリット、諸江葉月

内 容：「子供の森」計画 25 周年記念行事対応、支援グループツアー対応、CFP インターナショナルコーディネーター研修実施、CFP 業務調整等

6)

期 間：平成 28 年 8 月 28 日～8 月 30 日

派遣国：フィリピン

派遣者：中野良子、永石安明

内 容：ドゥテルテ新大統領への表敬訪問



7)

期 間：平成 28 年 9 月 15 日～9 月 22 日

派遣国：インド、マレーシア

派遣者：永石安明

内 容：インド 100 支局記念式典参加、CFP 業務調整等

8)

期 間：平成 28 年 10 月 26 日～28 日

派遣国：カンボジア

派遣者：春日智実

内 容：支援グループのツアー調整、CFP 業務調整等

9)

期 間：平成 28 年 12 月 2 日～4 日

派遣国：カンボジア

派遣者：春日智実

内 容：支援グループのツアー対応、CFP 業務調整等

10)

期 間：平成 29 年 1 月 16 日～1 月 22 日

派遣国：ミャンマー

派遣者：諸江葉月

内 容：トヨタ助成金事業現場視察、子ども親善大使フォローアップ調査、  
CFP 業務調整等

11)

期 間：平成 29 年 3 月 14 日～3 月 22 日

派遣国：インドネシア

派遣者：諸江葉月

内 容：助成金事業視察、エコキャンプ参加、グリーンウェイブ推進、CFP 業務調整等



### 3. 人材育成事業

#### 総括

オイスカの目指す国づくりの基本は「人づくり」であるという基本的考えの下、全国各地の研修現場においては、指導員並びの研修生が共に向いあい、同じ屋根の下で寝食を共にしながら研修目的達成のため真剣に取り組んだ一年であった。

外務省の NGO 事業補助金事業の一環として四国研修センターで実施した「国際協力関連事業・地域開発コース」については地元農園など関係機関や地域の方々の協力も得て、有益な研修が実施できた。また、マレーシア政府系機関マラ公団による要請で鉄道技術研修の受託事業を西日本研修センターで実施した。

民間企業の国際貢献の一環としてスタートした三菱 UFJ フィナンシャルグループ様支援による「環境保全型農業の指導者育成研修コース」については、研修期間中に企業側の関係者により研修の視察や研修生との交流を通じて、オイスカの研修や活動に理解を深めていただいた。今後は帰国した研修生のフォローアップにも力を入れ、研修成果を支援者の皆様へ報告していきたい。

#### 1) 一般研修事業

オイスカの実施する「一般研修」コースは、中部日本、西日本、四国研修センターで行われている「農業技術」、「農業指導 OB」コースと、「家政」、「国際ボランティア」の分野に分かれて実施した。各コースの研修生は、海外でのオイスカプロジェクトのリーダーとして、または地域における農村開発のリーダーとして、活躍すべく大きな期待と責任が課せられています。

農業分野においては、有機農業技術や栽培管理技術の習得、そして土づくりを基本とした持続可能な農業形態について現場での経験を参考にしながら習得し、その経験を基にそれぞれの地域に合った農業形態を考え、それを実践していただくの行動力や応用力を身に付けていけるようなカリキュラムで構成して実施した。また、家政の分野においては、調理実習、栄養学、洋裁、華道等の研修に加えて、各地域で展開されている特産品や加工品の開発現場を見学し、それを参考にしながら地域開発の在り方について理解を深めていく機会を設けた。限られた研修期間の中で、これらの条件を習得することは非常に困難なことではあるが、常に目的意識を持ちながら、母国における様々な問題や課題と向き合いながら研修に取り組むことで、より有意義な経験を積むことが出来るように指導に努めた。今後も海外の現場と情報を共有しながら、研修生の帰国後における活躍の舞台を一緒になって築いていけるように、努力していきたい。

## 研修訓練事業

### ① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

研修科目 \ 国別	フィジー	インドネシア	マレーシア	モンゴル	ミャンマー	パプア・ニュー・ギニア	フィリピン	スリランカ	インド（チベット）	合計
国際協力ボランティア	1	1		1			1			4
農業技術					1	1	1		1	4
家政		1	3				2	1		7
農業指導 OB	1					1	2			4
合計	2	2	3	1	1	2	6	1	1	19

### ② 本年度研修員氏名一覧

No	氏名	国名	科目(委託先)	期間
西日本研修センター(6名)				
1	Mr. Dimas Prabu Poetro	インドネシア	国際協力ボランティア	2015. 2～2017. 2
2	Ms. Tuvdendorj Tumendemberel	モンゴル	国際協力ボランティア	2015. 7～2017. 7
3	Ms. Intan Munirah Binti Zaim	マレーシア	家政科研修	2015. 4～2017. 3
4	Mr. Ratu Luke Sisiwa	フィジー	国際協力ボランティア	2016. 1～2017. 7
5	Mr. Passang Wangdu	インド(チベット)	農業技術	2016. 4～2017. 3
6	Ms. Tessa Jade Medrano Boyboy	フィリピン	家政科研修	2016. 4～2018. 3
中部研修センター(9名)				
7	Ms. Susette D. Semuil	マレーシア	家政科研修	2014. 8～2016. 8
8	Ms. Gita Desvira Putri	インドネシア	家政科研修	2015. 10～2017. 10
9	Ms. Anna Marie Bulanon Peruelo	フィリピン	国際協力ボランティア	2015. 2～2016. 8
10	Ms. Taoba Lute Ratu	フィジー	国際協力ボランティア	2015. 2～2017. 2
11	Ms. Amarakoon Mudiyansele Gayani Udhesika Amarakoon	スリランカ	家政科研修	2016. 1～2018. 1
12	Mr. Michael Jorlucas Aquino	フィリピン	農業指導 OB	2016. 1～2018. 1
13	Mr. Bo Tin Phyo	ミャンマー	農業技術	2016. 2～2017. 2

14	Mr. Mark Hombo	PNG	農業技術	2016.2～2017.2
15	Mr. John Joseph Ladines Palines	フィリピン	農業技術	2016.2～2017.2
四国研修センター(4名)				
16	Ms. Glenda Johnybel	マレーシア	家政科研修	2015.2～2017.2
17	Mr. Gabriel Kopel	PNG	農業指導 OB	2015.4～2017.2
18	Mr. Dennis Pascua Dela Cruz	フィリピン	農業指導 OB	2016.2～2018.2
19	Ms. Mary Ann Dagupioso Satur	フィリピン	家政科研修	2016.2～2018.2

③ 環境保全型有機農業指導者育成研修

環境保全型の農業を広く普及させるためには、各地域で指導にあたる人材の育成が急務となる。手始めとして持続可能な環境保全型農業を身に付け地域のリーダーとなりうる人材のキャパシティー・ビルディングを行い、国の基盤である農業を如何に持続可能なものにしていくか、農業を取り巻く環境をいかに保全していくか、今後の大きな課題となっている。本研修コースは、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）の支援と協力で平成28年4月12日から平成29年3月10日までの期間、7カ国から10名の研修員を西日本研修センターで受入れ、環境保全に配慮しながら進めていく有機農業の技術等、特に土づくりを基本とした各国でも応用できる農業形態の指導をすすめ、自国における村づくり、持続可能な農業を基本とした地域開発に貢献できる人材の育成を目的として実施した。

No	氏名	国名
1	Mr. Soupagna Sou	カンボジア
2	Mr. Sokheng Krouch	カンボジア
3	Ms. Josiliva Vukirewa	フィジー
4	Ms. Reska Rismayanti	インドネシア
5	Ms. Helly Priani	インドネシア
6	Mr. Mikeday Bin Majikon	マレーシア
7	Mr. Zagragchaa Dashnyam	モンゴル
8	Ms. Zin Mar New	ミャンマー
9	Mr. Fred Lumou Samuel	パプアニューギニア
10	Mr. Cornol Alukis	パプアニューギニア

④ 研修員送出し機関

本年度における研修員の現地送出し機関は下記の通りである。

- |              |                                  |
|--------------|----------------------------------|
| 1. カンボジア     | オイスカ・カンボジア総局                     |
| 2. フィジー      | オイスカ・フィジー総局                      |
| 3. インドネシア    | オイスカ・スカブミ研修センター                  |
| 4. マレーシア     | オイスカ・マレーシア総局<br>KPD/オイスカ青年研修センター |
| 5. モンゴル      | オイスカ・モンゴル総局                      |
| 6. ミャンマー     | オイスカ・ミャンマー総局                     |
| 7. パプアニューギニア | オイスカ・ラバウル・エコテック研修センター            |

2) 技能実習事業

① 農業技能

オイスカの国内研修センター内で実施される研修課目以外に、外部の農家等に委託して行う技能実習を現地送り出し機関の強い要望により実施した。技能実習生は入国後、国内研修センターで約2カ月間の日本語・生活習慣等を身につける集団講習修了後、それぞれの委託先へ配属される。実際の現場で技術・技能を身につけることができ、実習修了後母国に帰り即戦力の人材として期待されることが本事業の大きな特色である。これらの農業技術の習得は地域開発の即戦力的な人材として農村社会の振興に寄与している。

本年度も引き続き沖縄県の委託事業として受け入れた技能実習生もいるため、合計154名が技能実習を行った。また、新たにモンゴルが送り出し国として加わり、平成29年度に初めての実習生が入国する予定となっている。同国では活動が10年を超え、研修生だけでなく、今後実習生の送り出しにも力を入れていく予定だ。

	氏名	国名	委託先	期間
<b>耕種農業施設園芸(16名)</b>				
1	Mr. Castillo Rowen John Magno	フィリピン	サンプラント	2013.12~2016.12
2	Mr. Alpanta Junriks Gaviola	フィリピン	サンプラント	2013.12~2016.12
3	Mr. Dewa Putu Purna	インドネシア	仲吉 勝弘	2014.1~2017.1
4	Mr. Pengli Alimbalu	インドネシア	仲吉 勝弘	2014.1~2017.1
5	Mr. Abadilla Eligar Aboyo	フィリピン	サンプラント	2014.1~2017.1
6	Mr. Ahmad	インドネシア	大城 昌栄	2014.8~2017.8
7	Mr. Arif Rahman Hakim	インドネシア	大城 昌栄	2014.8~2017.8
8	Mr. Vicera Jeffrey Talledo	フィリピン	サンプラント	2014.8~2017.8
9	Mr. Supriadi Patrio	インドネシア	仲吉 勝弘	2015.3~2018.3
10	Mr. Ahmad Rofiq	インドネシア	仲吉 勝弘	2015.3~2018.3
11	Mr. Noprizal	インドネシア	石本園芸	2015.8~2018.8
12	Mr. Barreyro Darwin Bejarin	フィリピン	宇江城 安勝	2016.7~2019.7
13	Mr. Preza Zulueto II Talledo	フィリピン	宇江城 安勝	2016.7~2019.7
14	Mr. Tran Minh Luong	ベトナム	國吉 正治	2016.7~2019.7
15	Mr. Nguyen Van Su	ベトナム	國吉 正治	2016.7~2017.2
16	Mr. Winarto	インドネシア	(株)明日香園	2016.10~2019.10
<b>耕種農業畑作・野菜(105名)</b>				
17	Mr. Ari Baskara	インドネシア	竹田 翼	2013.10~2016.10
18	Mr. Suerte Francisco Cabansag	フィリピン	當山農場	2013.12~2016.12
19	Mr. Jamili Larry Toleco	フィリピン	當山農場	2013.12~2016.12
20	Mr. I Dewa Gede Wira Ekadinata	インドネシア	吉浜 清裕	2014.1~2017.1
21	Mr. I Wayan Sudanta	インドネシア	伊良部 友晃	2014.1~2017.1
22	Mr. I Wayan Sugitha	インドネシア	伊良部 友晃	2014.1~2017.1
23	Mr. I Made Yudiana	インドネシア	大城 清助	2014.1~2017.1
24	Mr. I Kadek Wahyu Sugiarta	インドネシア	大城 清助	2014.1~2017.1
25	Mr. Nyoman Suryana	インドネシア	神里 賢	2014.1~2017.1
26	Mr. I Wayan Putu Santika	インドネシア	金城 辰男	2014.1~2017.1
27	Mr. Ali Shofiyadi	インドネシア	金城 孝	2014.1~2017.1
28	Mr. Sandi Irawan	インドネシア	金城 敏	2014.1~2017.1
29	Mr. Yoyo Sunaryo	インドネシア	金城 直樹	2014.1~2017.1
30	Mr. Made Darmawan	インドネシア	玉城 忍	2014.1~2017.1
31	Mr. Dewa Nyoman Adi Adnyana	インドネシア	玉城 哲弘	2014.1~2017.1
32	Mr. Dian Artha Pramana	インドネシア	玉城 哲弘	2014.1~2017.1
33	Mr. I Made Suastawan	インドネシア	波平 渡	2014.1~2017.1

34	Mr. Ursula Miljune Lizare	フィリピン	垣花 恵忠	2014.1～2017.1
35	Mr. Lozada Vexel Amar	フィリピン	金川 均	2014.1～2017.1
36	Mr. Permias Bobby Mark Duca	フィリピン	沖山 聖	2014.1～2017.1
37	Mr. Labargan Joey Cagalitan	フィリピン	吉浜 清裕	2014.1～2017.1
38	Mr. Tabobo Jose Roger Labioso	フィリピン	金城 孝	2014.1～2017.1
39	Mr. Khaerul Fahmi	インドネシア	神里 賢	2014.8～2017.8
40	Mr. Nur Rahmat	インドネシア	金城 敏	2014.8～2017.8
41	Mr. Muhamat Habibi	インドネシア	金城 直樹	2014.8～2017.8
42	Mr. Hendro Pramono	インドネシア	玉城 忍	2014.8～2017.8
43	Mr. Arif Erfan Efendi	インドネシア	仲西 栄二	2014.8～2017.8
44	Mr. Saepurrohman	インドネシア	仲西 栄二	2014.8～2017.8
45	Mr. Arie Hermawan	インドネシア	玉城 直也	2014.8～2017.8
46	Mr. Agung Ginanjar	インドネシア	玉城 直也	2014.8～2017.8
47	Mr. Komang Agus Susila Jaya	インドネシア	新垣 修	2014.8～2016.8
48	Mr. Joko Saloko	インドネシア	新垣 修	2014.8～2017.8
49	Mr. I Putu Susana	インドネシア	長尾 庄淳	2014.8～2017.8
50	Mr. Anak Agung Ngurah Alit Wirasatya	インドネシア	長尾 庄淳	2014.8～2017.8
51	Mr. Puguh Tri Irwanto	インドネシア	大城 篤	2014.8～2017.8
52	Mr. Nanang Mualim Makmun	インドネシア	大城 篤	2014.8～2017.8
53	Mr. Isdan Mariadi	インドネシア	島袋 政信	2014.8～2017.8
54	Ms. Kawai Laila Fatim	インドネシア	島袋 政信	2014.8～2017.8
55	Mr. Asep Basir Ramdani	インドネシア	玉城 盛仁	2014.8～2017.8
56	Mr. Sandi Faridillah	インドネシア	仲地 政次	2014.8～2017.8
57	Ms. Windi Ratnasari	インドネシア	仲地 政次	2014.8～2017.8
58	Mr. Dede Mulyadi	インドネシア	上江洲 実	2014.8～2017.8
59	Mr. Kurniawan	インドネシア	(株)和伊耕産	2014.8～2017.8
60	Mr. Martinus Calvin Suatan	インドネシア	(株)和伊耕産	2014.8～2017.8
61	Mr. I Gusti Made Mahayasa	インドネシア	農業生産法人(有) 南陽花き生産組合	2014.8～2017.8
62	Mr. Flores Antonio Jr. Sales	フィリピン	金川 均	2014.8～2016.5
63	Mr. Mostacho Gaujil Oyangorin	フィリピン	浅沼 清	2014.8～2017.8
64	Mr. Racelis Raymond Nombrefia	フィリピン	沖山 聖	2014.8～2017.8
65	Mr. Gabutero Mark Bendolo	フィリピン	垣花 恵忠	2014.8～2017.8
66	Mr. Udaha Napaya Gedara Channa Rukman Bandara	スリランカ	(有)沖縄ファーム	2014.8～2017.8
67	Mr. Wijerathne Palipana Wasala Mudiyansele Gihan Chaminda	スリランカ	(有)沖縄ファーム	2014.8～2017.8
68	Ms. Kapugedara Samatun Mudiyansele Nethmini Prasanthika	スリランカ	玉城 盛仁	2014.8～2017.8
69	Ms. Hewa Pannilage Jayaneththi Priyadarshani	スリランカ	上江洲 実	2014.8～2017.8
70	Ms. Sooriya Pathirana Denika	スリランカ	蔵下 良彦	2014.8～2017.8
71	Ms. Madurawalage Dona Kaushalya Kumudumali	スリランカ	蔵下 良彦	2014.8～2017.8
72	Ms. Amarasinghe Pedige Yamuna Lalanthika	スリランカ	島袋 利幸	2014.8～2017.8
73	Mr. Jayasundara Samarakoon Mudiyansele Nimal Kumara Rathnayaka	スリランカ	山田 政秀	2014.8～2017.8
74	Mr. Susilo Irawan	インドネシア	中村 伸次	2015.3～2018.3
75	Mr. Epin Mulyadiana	インドネシア	田場 恒昭	2015.3～2018.3
76	Mr. Nazzil Zanari	インドネシア	田場 恒昭	2015.3～2018.3
77	Mr. Asep Saefullah Amri	インドネシア	大城 清助	2015.3～2018.3
78	Mr. Ali Akbar Yasid	インドネシア	大城 清助	2015.3～2018.3
79	Mr. Puji Wahyu Utomo	インドネシア	玉城 哲弘	2015.3～2018.3
80	Mr. Agus Salim	インドネシア	玉城 哲弘	2015.3～2018.3
81	Mr. Pratanjana Emde Gama	インドネシア	波平 渡	2015.3～2018.3

## 人材育成事業

82	Mr. Sumarno	インドネシア	波平 渡	2015.3～2018.3
83	Mr. Lankathilaka Adikari Mudiyansele Chanaka Sajith Kumara	スリランカ	當山農場	2015.3～2018.3
84	Mr. Sabuero Giovanni Ataylar	フィリピン	北日本菅与(株)	2015.3～2018.3
85	Mr. Ocumen Joseph Palara	フィリピン	北日本菅与(株)	2015.3～2018.3
86	Mr. Amparo Mark Lester De Guia	フィリピン	北日本菅与(株)	2015.3～2018.3
87	Mr. Rajapaksha Gedara Rohana Kumara	スリランカ	新垣 正則	2015.3～2018.3
88	Mr. Sari Opsus Harjianto	インドネシア	神里 賢	2015.8～2018.8
89	Mr. Prayitno	インドネシア	神里 賢	2015.8～2018.8
90	Mr. Deni Agus Salim	インドネシア	玉城 忍	2015.8～2018.8
91	Mr. Bayu Januardi	インドネシア	金城 直樹	2015.8～2018.8
92	Mr. Rais	インドネシア	(株)和伊耕産	2015.8～2018.8
93	Mr. Uus Usrofil	インドネシア	(株)和伊耕産	2015.8～2018.8
94	Mr. Dissanayaka Mudiyansele Sasanga Diyanath Bandara Dissanayaka	スリランカ	(有)沖繩ファーム	2015.8～2018.8
95	Mr. Gardihewavasam Punchi Hewage Sangeeth Wijayantha PUNCHIHewa	スリランカ	(有)沖繩ファーム	2015.8～2018.8
96	Mr. Yapa Mudiyansele Selaka Harindra Yapa	スリランカ	(有)沖繩ファーム	2015.8～2018.8
97	Mr. Dissanayake Mudiyansele Prabath Sudarshana	スリランカ	金川 均	2015.8～2018.8
98	Mr. Wahumpurage Hemantha Wijenayaka	スリランカ	垣花 恵忠	2015.8～2018.8
99	Mr. Hewa Yaddhegige Eranga Sampath Guruge	スリランカ	浅沼 清	2015.8～2018.8
100	Mr. Massalage Don Dilum Aroscha Kumarasiri	スリランカ	大城 典一	2015.8～2016.12
101	Mr. Jhon Dennis Hitipeuw	インドネシア	竹内 章雄	2015.12～2018.12
102	Mr. Ballacillo Rowel Artienda	フィリピン	山本一守	2015.12～2018.12
103	Mr. Pataray Cristopher Buendia	フィリピン	北日本菅与(株)	2016.3～2019.3
104	Mr. Seares Reymond Nino	フィリピン	北日本菅与(株)	2016.3～2019.3
105	Mr. Terredano Arnold Jan Ascano	フィリピン	北日本菅与(株)	2016.3～2019.3
106	Mr. Baldemor Deo Jomar Tobias	フィリピン	外間 宏喜	2016.7～2019.7
107	Mr. Roc John Benedick Bersalona	フィリピン	外間 宏喜	2016.7～2019.7
108	Mr. Requiron Steniel Cabayao	フィリピン	浅沼 清	2016.7～2019.7
109	Mr. Muares Jerry Alipater	フィリピン	大城 典一	2016.7～2019.7
110	Mr. Secreto Frankie Ortega	フィリピン	沖山 聖	2016.7～2019.7
111	Mr. Paborada Noel Jr. Bulanon	フィリピン	金川 均	2016.7～2019.7
112	Mr. Barbero John Mc Lean Sunio	フィリピン	外間 年男	2016.7～2019.7
113	Mr. Labaoan Aquilles Balueg	フィリピン	外間 年男	2016.7～2019.7
114	Mr. Wahyu Setio Aji	インドネシア	渡眞利 貞光	2016.7～2019.7
115	Mr. Heriyanto	インドネシア	渡眞利 貞光	2016.7～2019.7
116	Mr. Nguyen Van Su	ベトナム	上江洲 実	2016.7～2019.7
117	Mr. Trinh Thanh Thinh	ベトナム	上江洲 実	2016.7～2019.7
118	Mr. Ta Van Hoc	ベトナム	玉城 盛仁	2016.7～2019.7
119	Mr. Belleza Henry Ballo	フィリピン	(有)沖繩ファーム	2016.8～2019.8
120	Mr. Lucban Dindo Jr Bagtas	フィリピン	(有)沖繩ファーム	2016.8～2019.8
121	Mr. Regunton Bernard Zales	フィリピン	(有)沖繩ファーム	2016.8～2019.8
<b>畜産農業（養鶏）4名</b>				
122	Mr. Idris Shaleh	インドネシア	(有)ヒグチファーム	2014.8～2017.8
123	Mr. Istanto	インドネシア	(有)ヒグチファーム	2015.8～2018.8
124	Mr. Dede Indra	インドネシア	永井養鶏園	2015.10～2018.10
125	Mr. Astrande Arman Tamo	フィリピン	(有)ヒグチファーム	2016.9～2019.9
<b>畜産農業（養豚）25名</b>				
126	Mr. Echague Alvin Vincua	フィリピン	トヨタファーム	2013.4. ～2016.4
127	Mr. Vijar Jonirey Raguin	フィリピン	(有)日向養豚	2013.12～2016.12



128	Mr. Lubandina Jerome Cainoy	フィリピン	(有)日向養豚	2013.12～2016.12
129	Mr. Florian Petrus	マレーシア	トヨタファーム	2014.6～2017.6
130	Mr. Arnold Alexon	マレーシア	(有)吉田畜産	2014.6～2017.6
131	Mr. Magala Arnel Tan	フィリピン	(株)菅与	2014.9～2017.9
132	Mr. Longenos Freddie Juan	フィリピン	(株)菅与	2014.9～2017.9
133	Mr. Aranga Jerry Palabrica	フィリピン	(株)菅与	2014.9～2017.9
134	Mr. Sylvester Lewis	フィリピン	トヨタファーム	2015.4～2018.4
135	Mr. Abadiano Jezreel Importante	フィリピン	(株)菅与	2015.8～2018.8
136	Mr. Buhian James Albos	フィリピン	(株)菅与	2015.8～2018.8
137	Mr. Tadeo Jhon Jovi Cada	フィリピン	(株)菅与	2015.9～2018.9
138	Mr. Ardaniel Patrick Jay Valdez	フィリピン	(株)菅与	2015.9～2018.9
139	Mr. Echipare Cristopher Rombawa	フィリピン	(株)菅与	2015.9～2018.9
140	Mr. Min Thu	ミャンマー	トヨタファーム	2015.12～2018.12
141	Mr. Zayar Soe	ミャンマー	トヨタファーム	2015.12～2018.12
142	Mr. Talingdan Narciso Balucas	フィリピン	(有)吉田畜産	2016.2～2019.2
143	Mr. Manahan Roberto Bartolome	フィリピン	(有)日向養豚	2016.9～2019.9
144	Mr. Salvador John Philip Mallari	フィリピン	(有)日向養豚	2016.9～2019.9
145	Mr. Madriaga Taryl De Guzman	フィリピン	(株)菅与	2016.9～2019.9
146	Mr. Solacito Meptopiles Baring	フィリピン	(有)吉田畜産	2016.12～2019.12
147	Mr. Nay Zaw Ngwe	ミャンマー	トヨタファーム	2016.12～2019.12
148	Mr. Yar Zar Tun	ミャンマー	トヨタファーム	2016.12～2019.12
149	Mr. Flores Robin Cortes	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2017.1～2020.1
150	Mr. Trinidad John Patrick Algarne	フィリピン	(株)北海道日高牧場	2017.1～2020.1
<b>畜産農業（酪農）4名</b>				
151	Mr. Maguad Joseph Jr. Salido	フィリピン	(有)アイ・アイ・ティ	2014.8～2017.1
152	Mr. Barbero Ferick Piscien	フィリピン	岡牧場	2015.12～2018.12
153	Mr. Petrus Nama Waleng	インドネシア	(有)アイ・アイ・ティ	2016.4～2019.4
154	Ms. Zabanal Sherayne Caes	フィリピン	(有)アイ・アイ・ティ	2016.9～2019.9

【実習科目及び国別研修生数】

国 別 実習科目	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	スリランカ	ベトナム	合計
耕種農業（施設園芸）	8			6		2	16
耕種農業（畑作・野菜）	56			29	17	3	105
畜産農業（養鶏）	3			1			4
畜産農業（養豚）		2	4	19			25
畜産農業（酪農）	1			3			4
合 計	68	2	4	58	17	5	154

## 人材育成事業

### ② 工業技能

開発途上国が産業発展を推し進める中で、先進諸国での当該技術の習得を希望する青年は少なくない。その一方で、日本では頒布されて久しい工業技術も途上国では依然として多くの地域で不足し必要とされている。当法人では、工業技術の領域を広げ、そうした多様なニーズに対応するため、工業分野において技能実習制度を導入している。

また実際の会社組織の一員となることで現場社会の厳しさを責任感を身につけることができる。研修現場では評価も高く、委託企業担当者も本事業の趣旨に賛同し積極的に指導して頂き国際協力の現場として担っていただいている。

No	氏名	国名	委託先名	期間
<b>機械加工(6名)</b>				
1	Mr. Muhammad Asri bin Ayub	マレーシア	(株)大洋製作所	2014.1～2017.1
2	Mr. Mohd Faisal bin Ramly	マレーシア	(株)大洋製作所	2014.1～2016.12
3	Mr. Muhammad Shazwan Bin Kamarulshah	マレーシア	(株)大洋製作所	2015.3～2018.3
4	Mr. Muhammad Firdaus Bin Ibrahim	マレーシア	(株)大洋製作所	2015.5～2018.5
5	Mr. Khairul Afandi Bin Sulaiman	マレーシア	(株)大洋製作所	2016.9～2019.9
6	Mr. Muhammad Syaddad Bin Mustapa	マレーシア	(株)大洋製作所	2016.9～2019.9
<b>機械保全(1名)</b>				
7	Mr. Marmeto Nazir Jason Barbosa	フィリピン	豊田汽缶(株)	2015.8～2018.8
<b>建設機械施工(10名)</b>				
8	Mr. Muhammad Yusri Bin Razali	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
9	Mr. Muhammad Siddiq Bin Robani	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
10	Mr. Muhammad Nasrullah Muhaimin Bin Kamsis	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
11	Mr. Muhamad Aimi Bin Mhd Sakri	マレーシア	中村建設(株)	2015.2～2017.2
12	Mr. Khairulmiftah Bin Kaspin	マレーシア	中村建設(株)	2015.2～2018.2
13	Mr. Mohamad Anuarul Amin Bin Mohamad Azmi	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2016.3～2019.3
14	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	ヤスキ建設(株)	2016.3～2019.3
15	Mr. Mohamad Solehin Bin Ibrahim	マレーシア	中村建設(株)	2016.4～2019.4
16	Mr. Muhammad Abid Bin Abdul Rahim	マレーシア	中村建設(株)	2016.4～2019.4
17	Mr. Muhd Afiq Safwan Bin Hasnan	マレーシア	中村建設(株)	2016.4～2019.4
<b>塗装(9名)</b>				
18	Mr. Tagura Aristotle Bobila	フィリピン	(株)鈴木サビース工場	2014.8～2017.8
19	Mr. Muhammad Nafis Bin Abdul Aziz	マレーシア	(有)ワイルドグース	2015.3～2018.3
20	Mr. Honor Daryl Alacar	フィリピン	(株)鈴木サビース工場	2015.8～2018.8
21	Mr. Esmalla Wendell Mark Guanzon	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015.10～2018.10
22	Mr. Villanueva Joemar Jacosalem	フィリピン	(株)浜名ワークス	2015.10～2018.10
23	Mr. Macaya Jan Rafael Salhay	フィリピン	(株)山陰オアシス	2016.1～2019.1
24	Mr. Muhammad Abdul Muiz Bin Sukaimi	マレーシア	三河ダイハツ(株)	2016.7～2019.7
25	Mr. Mohammad Khairul Bin Abdullah Sani	マレーシア	三河ダイハツ(株)	2016.7～2019.7
26	Mr. Trube Joemar Ocumen	フィリピン	(株)鈴木サビース工場	2016.9～2019.9
<b>冷凍空調和機器施工(8名)</b>				
27	Mr. Mohamad Syawal Bin Khalid	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2013.4.～2016.4
28	Mr. Kairul Azwa Bin Mohd Sidik	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2013.4.～2016.4
29	Mr. Indra Irawan Bin Idrus	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2015.2～2018.2
30	Mr. Muhammad Qamarul Huzairah Bin Mohd Faizal	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2015.3～2018.3
31	Mr. Mohd Afifi Bin Md Jamil	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2016.2～2019.2
32	Mr. Mohammad Fakhirin Bin Mohd Taha	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2016.2～2019.2

33	Mr. Muhamad Zikri Bin Mohd Riza	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2017. 2～2020. 2
34	Mr. Ameen Loqman Bin Zainudin	マレーシア	(有) 清明エンジニアリング	2017. 2～2020. 2
<b>溶接(9名)</b>				
35	Mr. Dik Dik Priyatna	インドネシア	(株) 三友金属	2015. 8～2018. 8
36	Mr. Burhanuddin	インドネシア	(株) 三友金属	2015. 8～2018. 8
37	Mr. Duenas Lenard Hillana	フィリピン	(株) 浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
38	Mr. Ganaba Gerard Dimitri	フィリピン	(株) 浜名ワークス	2015. 10～2017. 2
39	Mr. Guanzon Norman Casaljay	フィリピン	(株) 浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
40	Mr. Papa Andre San Pedro	フィリピン	(株) 浜名ワークス	2015. 10～2018. 10
41	Mr. Dacumos Reychon Villegas	フィリピン	(株) ジェイテクノス	2015. 11～2018. 11
42	Mr. Valencia Rushline Jimenez	フィリピン	(株) ジェイテクノス	2015. 11～2018. 11
43	Mr. Cuizon Reynaldo Jr. Yangyang	フィリピン	(株) マイテック	2015. 11～2018. 11
<b>鉄筋施工(10名)</b>				
44	Mr. Gallos Angelo Lozada	フィリピン	(株) ノセブレコン	2013. 6～2016. 6
45	Mr. Purisima Albert Millan	フィリピン	(株) ノセブレコン	2013. 6～2016. 6
46	Mr. Quiachon Mark Sinugbahan	フィリピン	(株) ノセブレコン	2013. 6～2016. 6
47	Mr. Regunton Dennis Zales	フィリピン	(有) 明星工業	2014. 1～2017. 1
48	Mr. Dupaan Andrew Romero	フィリピン	(株) ノセブレコン	2015. 12～2018. 12
49	Mr. Famoso Shaison Quinto	フィリピン	(株) ノセブレコン	2015. 12～2018. 12
50	Mr. Ginete Jason Rey Dolloso	フィリピン	(株) ノセブレコン	2015. 12～2018. 12
51	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	(有) 明星工業	2015. 12～2018. 12
52	Mr. Callena Nomer Cacho	フィリピン	(有) 明星工業	2016. 10～2019. 10
53	Mr. Domingo Samuel Jr. Tadeo	フィリピン	(有) 明星工業	2016. 10～2019. 10
<b>かわらぶき(4名)</b>				
54	Mr. Syukur Andriawan	インドネシア	(有) 本石産業	2014. 1～2017. 1
55	Mr. Cokro Mulyono	インドネシア	(有) 本石産業	2014. 1～2017. 1
56	Mr. Faizal Ferdiansyah	インドネシア	(有) 本石産業	2016. 6～2019. 6
57	Mr. Deo Pratiskatama	インドネシア	(有) 本石産業	2017. 2～2020. 2
<b>左官(7名)</b>				
58	Mr. Babida Ceasar Biscarra	フィリピン	(有) 明星工業	2014. 1～2017. 1
59	Mr. Calanas Pedro Jr. Taladua	フィリピン	(株) ノセブレコン	2014. 8～2017. 8
60	Mr. Beltran Joseph Siddayao	フィリピン	(株) ノセブレコン	2014. 8～2017. 8
61	Mr. Crame Ronald Pacujan	フィリピン	(株) ノセブレコン	2014. 8～2017. 8
62	Mr. Balbuena Allain Joyle Andia	フィリピン	(株) ノセブレコン	2016. 12～2019. 12
63	Mr. Bringas Michael Senrick Barila	フィリピン	(株) ノセブレコン	2016. 12～2019. 12
64	Mr. Molina Erwin Dave Molina	フィリピン	(株) ノセブレコン	2016. 12～2019. 12
<b>めっき(4名)</b>				
65	Mr. Abdul Qaiyum Bin Ab Rahman	マレーシア	神谷理研(株)	2014. 2～2017. 2
66	Mr. Mohammad Arief Faisal Bin Najib	マレーシア	神谷理研(株)	2014. 2～2017. 2
67	Mr. Muhammad Haziq Bin Mohammad	マレーシア	神谷理研(株)	2016. 10～2019. 10
68	Mr. Mohammad Firdaus Bin Mohd Tahir	マレーシア	神谷理研(株)	2016. 10～2019. 10
<b>鋳造(9名)</b>				
69	Mr. Quidato Jerson Jimenez	フィリピン	白龍産業(株)	2014. 8～2017. 8
70	Mr. Dajay Mike Lumapay	フィリピン	白龍産業(株)	2014. 8～2016. 7
71	Mr. Gemelo John Michael Pingcas	フィリピン	白龍産業(株)	2014. 8～2017. 8
72	Mr. Magtuba Alfredo Jr. Puyod	フィリピン	白龍産業(株)	2015. 9～2018. 9
73	Mr. Gonzales Edson Acosta	フィリピン	白龍産業(株)	2015. 9～2018. 9
74	Mr. Toledo Jhescer Remen	フィリピン	白龍産業(株)	2015. 9～2018. 9
75	Mr. Chua John Philip Mallari	フィリピン	白龍産業(株)	2016. 9～2019. 9
76	Mr. Imperial Noel Pelon	フィリピン	白龍産業(株)	2016. 9～2019. 9
77	Mr. Rivera Joseph Laguardor	フィリピン	白龍産業(株)	2016. 9～2019. 9
<b>型枠施工(12名)</b>				
78	Mr. Dedy Rajab Kusuma	インドネシア	(株) 神組	2015. 3～2018. 3
79	Mr. Ali Mufid	インドネシア	(株) 神組	2015. 3～2018. 3
80	Mr. Munawar	インドネシア	(株) 神組	2015. 3～2018. 3

## 人材育成事業

81	Mr. Syahrol Ezmer Bin Abdul Razak	マレーシア	三登建設 (株)	2015.5～2018.5
82	Mr. Mohamad Shazwan Bin Rosman	マレーシア	三登建設 (株)	2015.5～2018.5
83	Mr. Arman	インドネシア	(株)神組	2016.3～2019.3
84	Mr. Batsing Zahama	インドネシア	(株)神組	2016.3～2019.3
85	Mr. Rendra Hidayat	インドネシア	(株)神組	2016.3～2019.3
86	Mr. Muhammad Syafiq Farhan Bin Zulkifli	マレーシア	三登建設 (株)	2016.10～2019.10
87	Mr. Muhamad Rifai	インドネシア	(株)神組	2017.3～2020.3
88	Mr. Ahmad Dariyono	インドネシア	(株)神組	2017.3～2020.3
89	Mr. Sihabullah	インドネシア	(株)神組	2017.3～2020.3
<b>電子機器組み立て (1名)</b>				
90	Mr. Mohammad Faturrahman Bin Mohammad Farid	マレーシア	(株)正興電機製作所	2016.7～2019.7
<b>表装 (1名)</b>				
91	Mr. Muhammad Zaimul Amin Bin Mohammad Zaim	マレーシア	(有)大地企画	2016.10～2019.10

### 【実習科目及び国別研修生数】

実習科目	国別			合計
	インドネシア	マレーシア	フィリピン	
機械加工		6		6
機械保全			1	1
建設機械施工		10		10
塗装		3	6	9
冷凍空気調和機器施工		8		8
溶接	2		7	9
鉄筋施工			10	10
かわらぶき	4			4
左官			7	7
めっき		4		4
鋳造			9	9
型枠施工	9	3		12
電子機器組み立て		1		1
表装		1		1
合計	15	36	40	91

### 3) 外務省国際開発協力関係民間公益団体補助金による事業

開発途上国において、地球温暖化による異常気象、「食の安全」に関する問題などについて、今まで以上により身近な問題として認識が深まっている。それと同時に、オイスカが今まで進めてきた環境に配慮した持続可能な有機農業の普及、指導及び人材育成活動が益々重要性を増し、様々な国より農業分野における人材育成やプロジェクト立ち上げの要請がきている。

各国からの要望、また各農村地域からの期待に答えていくためにも、より多くの人材を招聘し、有機農業を基本とした知識の習得、指導力を身につけてもらい、幅広い見識とリーダーシップを持って指導力を発揮できることを目的に本研修を実施した。

今回は約10ヶ月という短い期間であったが、講義・実習とも十分な時間をとることができた。座学や視察・見学でも多くの知識を得ることができた。技術研修では3ヶ月間「農業、調理、食品加工」の基礎実習を行い、帰国前3ヶ月はアクションプラン（「帰国後の行動計画」）に合わせ「農業、調理、食品加工」から1つを選択し、より専門的な知識を身につけることができた。また、今回の報告会は例年とは違い、アクションプラン（帰国後の計画）ではなく、日本で学んだことを再度確認するため、研修成果発表とした。地域開発コースは多岐に渡り研修を行うため、研修生が何を勉強したか改めて知るよい機会となった。

帰国後は所属機関等で地域の農村社会の発展のため、アクションプランを実行していく予定である。この研修を行うことにより農村での波及効果も期待されることから、本事業では国際協力・技術協力の観点において十分な成果を得られたと評価できる。

本年度は外務省国際開発協力関係民間公益団体補助制度で下記のコースに5名の研修員を平成28年2月22日から平成28年12月18日の期間受入れた。

	氏名	国名	期間
1	Ms. Anggita Kusuma Ningrum	インドネシア	2016.2～2016.12
2	Mr. Stanley Bin Kurumbong	マレーシア	2016.2～2016.12
3	Mr. Gantulga Khatanbaatar	モンゴル	2016.2～2016.12
4	Mr. Bradley Terrox Leva	PNG	2016.2～2016.12
5	Ms. Tikoinasau Miliakere Cirikiwai	フィジー	2016.2～2016.12

#### 研修内容

- ・有機農業（野菜・稲作）、平飼い養鶏の応用技術を習得する。
- ・流通（農業協同組合・卸売市場の見学、篤農家での研修等）を含めた日本の農業の現状を知る。
- ・余剰農産物を使用した自国のニーズに合った加工技術を習得する。また販売方法を学ぶ。
- ・食品学の知識を深めることにより調理で使用する時の食材の調理方法、保存方法の技術を習得する。
- ・実用的な栄養の基礎を習得することにより、自国の健康状態にあった調理方法を習得する。
- ・生活環境に身近な環境問題を理解し、具体的な活動の実施を通じて、自国への適用可能な手段を身につける。

#### 4) マラ公団受託事業

マレーシア政府系機関マラ公団による要請で西日本研修センターにおいて鉄道技術研修の受託事業を実施した。

オイスカの仲介により、JR九州がマレーシアのクアラルンプール大学に技術支援を始め

## 人材育成事業

た。JR九州は、昨年12月にマレーシア大学の機械工学専門の講師らを九州に招き、安全運行に関する技術のほか、鉄道システムの効率的かつ安全な運用や施設メンテナンスについての研修を行った。マラ公団とは1967年より人材育成分野での協力関係にあり、今回オイスカは、マラ公団とJR九州との鉄道に関する技術協力が順調に進むようさまざまな協力を始めたところだ。

同国では、人材育成事業へのニーズが年々高まっており、当法人のネットワークを最大限利用したプログラムに期待が寄せられている。これまでの研修実績を活用し、同国の発展に寄与すると同時により強固な関係構築を目指す。

### 1) 平成28年度 マレーシア・マラ公団鉄道技術研修

- (1) 実施期間：平成28年12月1日～12月10日
- (2) 実施場所：①西日本研修センター（基礎研修）、②JR九州
- (3) 人数：3名

氏名、所属	
1	Mr. Norhairin Mohd Saad：クアラルンプール大学 講師
2	Mr. Shukri Mohamed Salleh：クアラルンプール大学 講師
3	Mr. Mohd Shaharel Bin Jamal Noordin：クアラルンプール大学 技術アシスタント

### 5) 日本青年育成事業

当法人は長年、人材育成を通じて国づくりの基盤である開発途上国における農村地域の発展に寄与してきている。しかし近年わが国の産業構造の変化に伴い、農業分野での若手人材が大きく減少しており、国際協力の分野で活躍が期待できる人材の確保が著しく困難な状況となっている。

そうしたなか、将来この分野での貢献を目指そうとするわが国の数少ない若者たちの育成は欠かすことのできない喫緊の課題である。

本事業では、国内外で推進する国際協力活動及び関連業務（活動）を1年間の体験を通じて理解を深め、将来にわたって当法人を含むわが国NGO、さらには広く国際貢献を担う人材の養成を行った。

- 1) 対象者：1名
- 2) 研修期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日
- 3) 名簿

氏名	性別	研修場所
伊藤 洋介	男	東京本部、西日本研修センター、スカブミ研修センター

## 4. 啓発普及事業

### 総括

当法人は、全国の賛助会員の方々からの賛助会費を基礎として活動を推進しているため、近年の会員減少傾向を防ぐべく地域ごとに会員増強委員会の設置など活動を盛り上げるための行動を起こし国内外で活動の輪を広げている。こうした動きはオイスカ活動の資金的な支えとなるだけでなく組織の活性化にもつながっている。また今年度より、新規入会の賛助会員の初年度賛助会費（個人・法人）を四半期毎に会費額を設定する仕組みに規程を改正し、オイスカ活動への参加や支援を呼びかけやすく初期の段階でも接しやすくした。しかし今年度は広報や資料などが不足であったため呼びかけが十分とは言えず、次年度への課題も残す結果となった。

しかし多くの市民や団体企業に参画を呼び掛け、講演会やセミナー等の開催、森林保全活動などの国内における取り組みの他、海外へのボランティア派遣・視察など、14の支部と46の支援組織がさまざまな団体等と連携協力し実施した。

また、国際連携の促進するため国際会議等を開催し、オイスカ海外組織関係者や駐日外国公館・国際機関関係者との情報や意見交換に努めている。こうした日頃からのコミュニケーションを通じて、オイスカが進める国際協力活動の推進に理解を得られている。

その他、特記事項として7月に駐日ミャンマー連邦共和国大使館で「ミャンマー開発フォーラム」を開催した。近年、同国は経済発展や政治動向などが国際的に注目を浴びており、日本の国際協力NGOとミャンマー政府の観点から日本に求められる国際協力活動について支援者をはじめとする広く一般に向けて情報発信をおこなう機会となった。国内森林保全活動においても、「富士山の森づくり」10ヵ年計画が終了したが、引き続き多様性のある森の早期再生を目指して植林から生育調査や保育などを中心に継続することになった。国内での身近な活動の参加をきっかけに、海外の国際協力活動にもより多くの人たちに目を向けられるように啓発普及事業を通して働きかけをしていきたい。

### 1. 国内事業

全国各地で森林保全活動の実施や各種講演会・セミナーの開催、海外ボランティア派遣や視察などを多くの市民、企業、自治体と手を携えて活発に推進した。こうした活動は全国各地にある支部が中心となり実施した。国際協力活動という分野は、日常生活の中で実感を得られにくいこともあり、支援を継続していただくための日々の努力は大切である。

毎月の月刊誌やホームページなどを通じて発信すると同時に、日本の国際協力やグローバルな課題を、広く一般市民に知っていただくための啓発活動として報告会・セミナー、海外ボランティア派遣等の機会は重要な役割を果たしている。

1) 講演会・セミナー等の開催

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
本部	学校の森・子どもサミット	8月4日	192名	仙台市福祉プラザ ふれあいホール
本部・ 都議会議員連盟	海外研修生報告会	3月8日	45名	東京都議会議事堂
	マレーシア大使講演会	3月28日	20名	京王プラザホテル(新宿区)
北海道支部	山・林・SUN体験「子供の森」計画(20周年記念行事)	10月29日	43名	ホテル札幌ガーデンパレス(札幌市)
宮城県支部	国際協力活動報告会	6月14日	60名	ホテルグランテラス仙台
	新春懇談会	1月12日	54名	
	魅惑のコンサート	8月19日	230名	仙台市戦災復興会館
神奈川推進協議会	海岸林再生プロジェクト活動報告会	11月16日	15名	関内フューチャーセンター(横浜市)
山梨県支部 ・本部	全国木のまちサミット2016	9月3日～4日	150名	山梨県南巨摩郡早川町
富山県支部	活動報告会 勉強会	6月13日	81名	富山電気ビルディング(富山市)
静岡県支部	支部設立40周年記念式典	11月12日	250名	久能山東照宮・日本平ホテル(静岡市)
	国際協力活動報告会	9月23日	120名	浜松西ロータリークラブ(静岡県浜松市)
	愛と絆の講演会	12月4日	100名	鴛鴨区民会館(愛知県豊田市)
	海岸林再生プロジェクト活動報告会	12月7日	40名	中部日本研修センター
	ミャンマー視察報告会	3月10日	45名	愛知県議会議事堂
中部日本後援会	オイスカ活動報告会	11月24日	52名	東桜会館(名古屋市東区)
岐阜県支部	海岸林再生プロジェクト活動報告会	7月30日	30名	ふれ合い福寿会館(岐阜市)
	フィリピン活動報告会	10月18日	25名	
	中野良子総裁講演会	3月10日	23名	
関西支部	関西のつどい	7月31日	57名	大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)
	映画うみやまあひだ上映会&森と木のトークショー		350名	
	講演会「子どもの貧困を乗り越えて」	12月11日	70名	クレオ大阪中央(大阪市天王寺区)
四国支部	春のつどい国際協力講演会	4月27日	150名	オークラホテル丸亀
	四国のつどい講演会	10月14日	600名	ホテルパールガーデン(高松市)
坂出推進協議会	会員総会 講演会	6月10日	200名	坂出グランドホテル
高知県推進協議会	海岸林再生プロジェクト活動報告会	7月28日	30名	高知商工会館(高知市)



高松推進協議会	海岸林再生プロジェクト活動報告会	1月26日	20名	オークラホテル高松(高松市)
綾川推進協議会	海岸林再生プロジェクト活動報告会	1月28日	35名	オイスカ四国研修センター
徳島県推進協議会	海岸林再生プロジェクト活動報告会	1月27日	30名	阿波観光ホテル(徳島市)
西日本支部 福岡県議会議員連盟	オイスカ活動報告会	12月8日	100名	福岡県庁

## 2) 資料の作成・配布、インターネットでの情報配信

### ①月刊「OISCA」発行

年間11回発行(毎月約6200部に加え8・9月の合併号は15,000部。年間合計約77,000部)し、会員のほか、公官庁や各種団体など約300カ所に送付。

### ②ウェブサイトでの情報発信

月刊誌で取り上げたニュースを最新情報として配信したほか、全国のイベント・ボランティア情報の告知を行った。

また、海岸林再生プロジェクト ホームページでは、事業の進捗を常時更新するほか、新聞・専門誌掲載、TV・ラジオ放送予定、活動報告会情報も紹介、日々の動きを伝える「活動ブログ」更新は6年間で1,400回行っている。

### ③メールマガジンの発行

毎月第2・4金曜日に各種募集情報を中心とした最新情報を掲載したメールマガジンを配信。配信方法および読者数は下記の通り。

- \*まぐまぐ 910名
- \*メルマ 472名
- \*メール 425名

### ④Links for goodによる広告配信

yahoo が社会貢献活動として立ち上げたLinks for goodの広告を2013年12月より無料で配信できることになり、イベントの告知などの広告を配信。

### 3) 森林整備活動

オイスカが進める森林整備活動は多くのステークホルダー（行政、企業、研究機関、地元NPO等）と協働して実施し、植栽、枝打ちや間伐といった森林整備作業を実施するほか、衰退する日本の林業を支えるために国産木材の利用を促進している。

#### ① 企業等との協働による森林保全活動

企業等と協働で進める森林保全活動は、地元の林業者による施業を推進することにより、適正な森林整備をするとともに、地域産業の発展に寄与してきた。また、社員のボランティア活動や研修としてその現場を活用してもらうことで、より多くの方々に現在の日本の森林や地域の抱える課題を理解していただく機会となっている。

その結果、社会貢献活動だけにとどまらず、店舗や商品に国産材を利用したり、お客様を活動地へ案内するツアーの実施など、それぞれの企業の本業を通じてより広く活動に貢献する動きが進んでいる。

また、これらの活動をモデルケースとして全国に発信することにも注力し、平成28年9月にはオイスカが事務局を務めて「全国木のまちサミット2016」を山梨県で開催した。森林の荒廃、産業の衰退等、同様の課題を抱える全国の自治体に対して、これまでの取り組みを紹介すると共に、産学官民が忌憚なく意見を交える場を設けることができた。

事業名	実施月	活動内容	参加者数	活動場所
富士山の森づくり	5~10月	補植、下刈り、除伐 獣害防止ネットの補修	512名	山梨県鳴沢村
	6月	子どもたちへの環境教育		
甲州市・オルビスの森づくり	4, 11月	補植、下刈り、間伐、 材の活用、環境教育	269名	山梨県甲州市
ホンダの森づくり（小菅）	5, 9月	獣害防止ネットの設置、 歩道整備	108名	山梨県小菅村
ホンダの森づくり（寄居）	6, 11月	補植、下刈り、蔓切り 除伐、歩道整備	98名	埼玉県寄居町
ホンダの森づくり（秩父）	11月	植栽 ※荒天の為、ボランティア活動(参加 予定者96名)は中止。林業者へ委託	-	埼玉県秩父市
ライオン山梨の森づくり	4, 5, 7, 11月	下刈り、間伐、枝打ち、 木柵設置、新入社員研修	331名	山梨県山梨市
東急ホテルズの森	4, 10, 11月	施肥、間伐、枝打ち、 啓発活動	135名	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	8, 11月	間伐、集材	88名	山梨県道志村
パジェロの森	4, 6, 9月	植栽、下刈り、除伐、歩道整備、 整地作業、新入社員研修	195名	山梨県早川町
「魚つき保安林」保全プロジェクト	6~2月	森林調査、啓発活動	167名	神奈川県真鶴町

## ②全国各組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
北海道支部	グリーンウェイブ 2016 in えこりん村	6月4日	54名	えこりん村(恵庭市)
	第19回「山・林・SUN」 体験「子供の森」計画	10月1日	77名	CGC鳥柵舞の森 (千歳市)
宮城県支部	グリーンウェイブ 2016	5月20日	85名	仙台市立三条中学校 学校林
首都圏支部	「夕やけ小やけふれあいの 里」森林整備活動	6月1 4日	12名	東京都八王子市
	みどりの感謝祭 みどりと ふれあうフェスティバル	5月14 日, 15日	30名	東京都港区
	ありがとう築地まつり	5月3日	15名	東京都中央区
	築地市場「ゴミ0の日」ボ ランティア清掃活動	5月21日	13名	東京都中央区
神奈川推進協議会	よこはま国際フェスタ 2016	10月8日 ~10日	多数	横浜市西区 みなとみらい
山梨県支部	オギノの森	7月19日	多数	山梨県甲府市
	富士山の森づくり	6月4日	190名	山梨県鳴沢村
	つつじヶ崎森林再生事業	3月19日	11名	山梨県甲府市
長野県支部	富士山の森づくり	6月4日	4名	山梨県鳴沢村
	子どもの森体験	8月6日 ~7日	122名	長野県佐久市
富山県支部	海岸林再生プロジェクト 「植樹祭」参加	5月21日	17名	宮城県名取市
	猿倉 「緑の里山保全森づ くり」活動 2016	6月11日	50名	富山市
大垣推進協議会	新会長就任記念植樹式	5月13日	50名	浅中公園(大垣市)
本巣推進協議会	北方町新庁舎竣工記念植 樹式	4月14日	15名	岐阜県本巣郡北方町
静岡県支部	第9回遠州灘植林活動	10月29日	70名	静岡県浜松市内
静岡県支部・ 首都圏支部	清水区大内地区放置竹林の 里山整備	4月10日	60名	静岡市清水区
愛知県支部	オイスカの森	7月9日 10月1日 11月12日	49名	愛知県設楽町
	フォレストーズ・スクール	11月28~ 30日	10人	豊田市・設楽町
豊田推進協議会	海岸林再生プロジェクトボ ランティア活動	6月24日 ~25日	29名	宮城県名取市
丹羽推進協議会	海岸林再生プロジェクトボ ランティア活動	11月19日 ~20日	10名	宮城県名取市
みよし推進協議会	沖縄視察ボランティア	11月23日 ~25日	10名	沖縄県久米島町

啓発普及事業

関西支部	「ふれあいの森」森づくり	4月23日 10月22日	105名	大阪府四条畷市
広島県支部	オイスカ広島の森づくり	5月28日	30名	廿日市市吉和県立
	山・林・SUN活動	7月30日	107名	もみのき森林公園
四国支部	山・林・SUN活動	11月13日	83名	尾の瀬山 (まんのう町)
高知県推進協議会	「四万十よんでんの森」 体験学習	1月23日	30名	四万十町東又小学校 (高知県)
愛媛県支部	下刈り体験	5月12日	100名	忽那山 (愛媛県松山市)
	Mt. LOVE 10	6月18日 9月11日 11月12日	60名	
西日本支部	虹の松原クリーン大作戦	5月15日	2名	佐賀県唐津市
	熊本地震復興支援 農業ボランティア活動	6月24日	135名	熊本県阿蘇郡西原村
		7月1日		
		7月6日		
		7月11日		
		7月17日		
		7月21日		
		7月26日		
		8月6日		
		8月10日		
8月23日				
8月26日				
12月15日				
2月15日				
3月25日				
JR九州労組茶畑整備	6月24日	14名	福岡市早良区	
栗尾田んぼ草刈り	7月3日	3名		
海岸林再生プロジェクトボ ランティア活動	9月2日～ 4日	20名	宮城県名取市	
生物絶滅危惧種スイゼンジ ノリ保全活動	10月23日	177名	福岡県朝倉市	
東峰村100年の森づくり	11月23日	60名	福岡県東峰村	
ひなた村自然塾「梅の木剪 定」	12月26日	8名	佐賀市	
日田里山活動	2月2日	8名	大分県日田市	
グリーンウェイブ朝倉水源 の森づくり	3月19日	164名	福岡県朝倉市	

## 4) 各種体験活動

## ①森のつみ木広場

平成17年よりスタートした「森のつみ木広場」は、つみ木と触れ合うことを通して、子どもたちに森や自然を身近に感じてもらうと同時に、国産材の利用を促進するといった「間接的な森づくり」を行っている。

近年、国産材の活用が推進される中、子どもたちへの環境教育の一環として関心も高くなってきており、今年度は、活動を支える人材の育成にも注力するためインストラクター養成講座を開催した。全国の支部・推進協議会で合計100回を超える広場を開催することができた。

教育施設やイベントで開催することが多いため、活動を通じて不特定多数のオイスカを知らない層への啓発普及活動にもつながっており、オイスカの理念を広める役割も果たしているといえる。しかし開催にあたっては、主催者が地域のPTA、町会、協議会等で規模が小さいため開催に係る費用や支援などが得られてないため、今年度は支援者を募りつつ可能な範囲で展開していきたい。

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
本 部	4月16日	インストラクター養成講座
	5月8日	残堀川ふれあいイベント（東京都瑞穂町）
	5月21日	みどりのイベント（杉並区）
	6月18日, 19日	永福和泉地域区民センターまつり（杉並区）
	9月16日	杉並区立西田小学校
	9月24日, 25日	夕やけ小やけふれあいの里（東京都八王子市）
	10月9日	東京学芸大学
	11月4日	中央区幼稚園（中央区）
	11月12日	八潮児童センター（品川区）
	12月3日	ひととき保育馬橋（杉並区）
	12月10日	大宮小学校・幼稚園 花笠まつり（杉並区）
	12月18日	三ツ木児童センター（品川区）
	2月4日, 5日	永福和泉子どもまつり（杉並区）
北海道支部	2月9日	はらっぱ保育園（北海道札幌市）
宮城県支部	2月26日	松っ子まつり（宮城県松島町）
山梨県支部	4月25日	甲斐市立敷島保育園
	5月16日	甲斐市立竜王西児童館
	6月27日	光の森こども園
	7月11日	甲斐市立竜王東保育園
	8月22日	甲斐市立竜王北児童館
	10月23日	甲斐市わくわくフェスタ （主催：甲斐市わくわくフェスタ実行委員会）
	11月7日	甲斐市立竜王西保育園
	1月30日	甲斐市立竜王東児童館
	3月13日	甲斐市立双葉西児童館
長野県支部	5月6日	松本市波田放課後クラブ
	6月8日	松本市今井保育園
	8月24日	松本市波田児童センター
	8月29日	松本市神林保育園

	9月5日	松本市入山辺保育園
	9月24日～25日	松本市「市民活動フェスタ」
	10月26日	松本市島内児童センター
	10月28日	松本市島立児童センター
	11月4日	松本市高宮児童センター
	11月9日	松本市波田児童センター
	11月15日	松本市柏木保育園
	11月29日	松本市今井保育園
	12月2日	松本市錦部保育園
	12月5日	松本市岡田保育園
	2月16日	松本市錦部保育園
富山県支部	8月6日	とうぶ ふれあいフェスタ 2016 (富山市立東部小学校)
	8月20日	立山山麓音楽祭(立山山麓スキー場)
	10月15日～16日	とやま環境フェア 2016(高岡市テクノホール)
岐阜県支部	4月24日	瑞穂市図書館分館
	5月7日・8日	岐阜市メディアコスモス
	5月15日	可児市今渡公民館
	8月24日	米原市社会福祉センター
	8月27日	可児市土田公民館
	10月29日	可児市下恵土公民館
	2月26日	可児市広見公民館
静岡県支部	6月16日	清水飯田小学校
	6月23日	清水小学校・「森のつみ木広場」
	6月25日	オイスカ開発教育専門学校・めひるぎ祭
	7月7日	安西小学校・「森のつみ木広場」
	9月15日	蒲原西小学校・「森のつみ木広場」
	10月13日	新通小学校・「森のつみ木広場」
	11月10日	大里西小学校・「森のつみ木広場」
	11月26日	中田小学校「中田親父の会」・「森のつみ木広場」
	12月3日	蒲原白金児童館・「森のつみ木広場」
	1月14日	長田児童館・「森のつみ木広場」
	1月21日	安東児童館・「森のつみ木広場」
	2月12日	クリエート浜松・「はままつグローバルフェア」
	2月18日	麻機児童館・「森のつみ木広場」
	2月25日	服織児童館・「森のつみ木広場」
	3月11日	中島児童館・「森のつみ木広場」
3月18日	美和児童館・「森のつみ木広場」	
愛知県支部	6月8日	扶桑山名保育園
	6月16日	大口西保育園
	7月8日	扶桑高雄保育園
	7月23日	子供サポートクラブ
	8月5日	大口南保育園
	8月25日	大口北児童センター
	9月9日	大口北保育園

	10月12日	扶桑柏森南保育園
	1月19日	門弟山保育園
	1月24日	学校と保護司との連携強化のための推進事業
	1月27日	宮田東保育園
	2月2日	小鹿保育園
	2月14日	扶桑幼稚園
関西支部	5月22日	玉出小学校はぐくみネット
	5月26日～29日	万博マママルシェ イベントの中で
	10月27日	大阪市立瓜破東小学校
	11月18日	大阪市立中津小学校
	11月24日	大阪市立東都島小学校
	11月29日	大阪市立西野田幼稚園
	1月31日	香芝市立五位堂幼稚園
	2月18日	大阪市立玉造小学校
広島県支部	4月26日	介護付有料老人ホーム エネルギアケア平和公園 (広島県広島市)
	6月5日	もみのき森林公園ひろしま「山の日」県民の集い (広島県廿日市)
	9月24日	牛田総合公園 (広島県広島市)
	1月21日	牛田総合公園 (広島県広島市)
四国支部	7月20日	高松市立一宮小学校
	7月21日	栗林幼稚園
	7月22日	栗林幼稚
	7月26日	高松市立中央小学校
	8月2日	高松市環境保全推進課分室
	8月18日	高松市立牟礼北小学校
	8月25日	四国森林管理局・夏休み親子ふれあい木工教室
	9月7日	栗林幼稚園
西日本支部	12月17日	第3回子ども広場 (三豊市)
	5月23日	入部小学校留守家庭子ども会
	7月17日	赤坂幼児研究会
	7月20日	益城町立広安西小学校
	7月21日	益城町立飯野小学校
	8月1日	賀茂小学校留守家庭子ども会
	8月2日	西花畑小学校留守家庭子ども会
	8月3日	香椎東小学校留守家庭子ども会
	8月4日	舞鶴小学校留守家庭子ども会
	8月5日	春吉小学校留守家庭子ども会
	8月8日	石丸小学校留守家庭子ども会
	8月9日	名島小学校留守家庭子ども会
	8月10日	春住小学校留守家庭子ども会
	8月17日	堤丘小学校留守家庭子ども会
	8月18日	板付小学校留守家庭子ども会
8月19日	和白小学校留守家庭子ども会	

	8月22日	三筑小学校留守家庭子ども会
	8月23日	長尾小学校留守家庭子ども会
	8月24日	長尾小学校留守家庭子ども会
	8月25日	南当仁小学校留守家庭子ども会
	8月26日	こぼと学童保育

②海外ボランティア派遣・視察訪問

組織名	期 間	人数	訪 問 先
本 部 国会議員連盟	8月16日～18日	1名	フィリピン（「子供の森」計画25周年）
	8月28日～31日	4名	フィジー（青年研修センター・マングローブ視察）
	8月29日～9月1日	2名	タイ（NGO連携無償資金協力事業等視察）
北海道支部	3月29日～4月4日	15名	フィリピン・アブラ州
宮城県支部	11月19日～25日	6名	ミャンマー（20周年記念式典出席）
首都圏支部	12月2日～7日	9名	カンボジア・カンポンチャン
茨城推進協議会	5月19日～23日	9名	スリランカ（小学校校舎落成式出席）
	8月23～27日	11名	フィリピン・西ネグロス州（教育支援）
	2月12日～25日	11名	フィリピン・西ネグロス州（常盤大学）
山梨県支部	8月16～20日	18名	フィリピン・西ネグロス州
富山県支部	11月7～12日	28名	インド・AP州（富山県友好交流団）
長野県支部	11月19日～26日	15名	ミャンマー（20周年記念式典出席）
静岡県支部	8月5日～10日	28名	モンゴル（10周年記念式典出席）
	8月21日～27日	26名	スリランカ・クルネーガラ県
愛知県支部	8月24日～28日	10名	フィリピン・西ネグロス州
	11月20～23日	18人	フィリピンパラワン島
関西研修センター 広島県支部	8月20日～27日	12名	フィリピン・アブラ州
綾川推進協議会	8月5日～10日	12名	モンゴル（10周年記念式典出席）
香川東推進協議会	11月19日～24日	12名	ミャンマー（20周年記念式典出席）
三豊推進協議会	12月2日～7日	25名	カンボジア
福岡県議会議員連盟	7月24日～29日	10名	フィジー
西日本支部	8月5日～10日	18名	モンゴル
佐賀ラグリーンの翼	8月16日～21日	22名	フィリピン
宮崎推進協議会	8月21日～27日	3名	パラオ（パラオふれあいの旅）
	10月27日～31日	8名	マレーシア
九電ユニオン	11月4日～9日	11名	タイ・ラノー
九州ハートネット21	11月12日～18日	12名	フィリピン



## ③その他体験活動（研修生との交流会・参加イベントなど）

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
宮城県支部	海外研修生のつどい (交流会)	3月7日	50名	夢見の国 (宮城県大郷町)
首都圏支部	「子供の森」計画活動 報告会	7月1日	32名	オイスカ本部
		9月17日	35名	
		11月19日	29名	
	チャリティバザー	8月20日 1月21日	多数	
	新木場清掃まつり	3月19日	10名	江東区新木場
富山県支部	「G7 富山環境大臣会 合」開催記念シンポジ ウム	3月11日	多数	新宿中央公園「水の広場」
		3月10日	27名	オイスカ本部
富山県支部	「G7 富山環境大臣会 合」開催記念シンポジ ウム	4月10日	300名	インテックビル タワー111 (富山県富山市)
中信推進協議会	納涼祭	8月21日	20名	長野県松本市
長野県支部	バゴ研修センター 渡辺重美所長報告会	4月20日	12名	
静岡県支部	めひるぎ祭	6月25日	多数	オイスカ高等学校
	7日会 (第1回～3回)	6月7日 9月7日 2月7日	30名	浜松市内
	西部新春懇親会	1月28日	80名	浜松八幡宮 クスノキクラブ
岐阜県支部	消防車両譲渡式	6月13日	30名	岐阜市内
	臺灣交流団交流会	11月9日	30名	
	柳津小学校文房具贈 呈式	12月15日	13名	岐阜市立柳津小学校
愛知県支部	オイスカ友の会	8月20日	215名	扶桑文化会館(扶桑町)
	チャリティゴルフ	10月26日	149名	豊田市内
愛知県支部 中部日本研修センター	英語キャンプ	7月28～30日	18人	中部日本研修センター
		8月4～6日	25人	
		8月11～13日	9人	
半田推進協議会	海外研修生交流会	7月29日	29名	森牧場(愛知県半田市)
関西支部	かぐや竹林交流	5月21日	24名	京都府桂川河川敷
	万博ママ・マルシェ (スプリング)	5月26日～30日	2000名	万博記念公園 (大阪府吹田市)
	子どもの森親善大使 交流	9月20日～24日	多数	大阪府、奈良県
	万博ママ・マルシェ (ハロウィン)	10月20日	2000名	万博記念公園 (大阪府吹田市)
	大阪チャリティ マラソン	10月28日～30日	多数	大阪市内
	ワンワールド・	2月4日～5日	24000名	関西テレビ・北区民センター

啓発普及事業

	フェスティバル			(大阪市)
	かぐや竹林交流	5月21日	24	京都府桂川河川敷
広島県支部	海外研修生 広島研修受入	11月8日～9日	13名	広島平和記念資料館、宮島視察(広島市)
愛媛県支部	海外研修生交流会	11月1日	17名	ネストホテル松山(愛媛県松山市)
四国支部 高松推進協議会	チャリティゴルフ大会	11月16日	51名	志度カントリークラブ(香川県さぬき市)
四国支部 坂出推進協議会	チャリティゴルフ大会	3月23日	121名	高松カントリー倶楽部(香川県坂出市)
高松推進協議会	高松市環境活動展	11月12日～18日	多数	市民交流プラザ(瓦町FLAG 8階)(高松市)
	「子供の森」計画 お助け隊	通年	多数	高松市内
香川東推進協議会	交流授業	5月28日	30名	さぬき市立造田小学校(香川県さぬき市)
		11月14日	30名	
中讃推進協議会	丸亀お城まつり	5月3日～4日	多数	丸亀城(香川県丸亀市)
	クリスマス懇談会	12月7日	41名	オークラホテル丸亀(香川県丸亀市)
	「子供の森」計画 古本回収ボックス設置	1月～3月	多数	香川県丸亀市内
綾川推進協議会 坂出推進協議会	オイスカの夕べ	9月10日	約50名	四国研修センター
綾川推進協議会	第5回収穫感謝祭	11月26日	約50名	
徳島県推進協議会	徳島のつどい	6月14日	約40名	阿波観光ホテル(徳島市)
	阿波踊り	8月15日	約20名	徳島市内
高知県推進協議会	高知のつどい	7月28日	約40名	高知商工会館(高知市)
西日本支部 西日本研修センター	こらぼらQでん	6月4日	200名	西日本研修センター
		7月23日	20名	
	脇山校区田植交流	6月18日	150名	
	大野城市 tomorrow 交流会	6月26日	20名	
	隠岐小学校交流会	6月28日～29日	200名	
	早良小学校交流会	7月7日	各40名	
		11月29日 2月17日		
集まれ! 地球体験村	7月28日～30日	51名		
サマーナイト フェスティバル	7月30日	1200名		
朝倉推進協議会	朝倉産業視察	9月15日～16日	20名	福岡県朝倉市
佐賀県推進協議会	佐賀国際フェスタ	10月1日	500名	佐賀県国際交流プラザ
西日本支部 西日本研修センター	脇山校区稲刈大会	10月15日	150名	西日本研修センター
佐賀県推進協議会	佐賀料理交流会	10月22日	20名	佐賀県国際交流プラザ

		2月4日	25名	
	佐賀バルーンフェスタ	11月2日	25名	佐賀市
西日本支部 西日本研修センター	大野城フェスタ	11月5日～6日	多数	まどかぴあ (福岡県大野城市)
	収穫感謝祭	11月12日	1500名	西日本研修センター
	We Love オイスカ ゴルフコンペ	2月18日	73名	伊都ゴルフクラブ (福岡県糸島市)

④赤ちゃん木育広場

平成 25 年度より、乳幼児に木と触れ合う原体験を創出する「赤ちゃん木育広場」普及事業を開始した。この事業は、国産材を活用した木製おもちゃで乳幼児が遊ぶ広場を開催し、併せて保護者に対して国産材利用の意義を啓発することを目的としている。平成 28 年度はサミット㈱の支援を受けて豊島区内の団体・区関連施設に対して、同広場を開催するための「赤ちゃん木育おもちゃセット」の寄贈やその活用のための研修を行い、各団体を通じ広場の開催を促進した。また、個別に広場開催の様子を視察し、推進団体へのフォローアップを行った。結果、豊島区内で 65 回「赤ちゃん木育広場」が開催され、2,451 名の親子が参加し、啓発ブックレット 980 冊が配布された。

同セットのおもちゃには、サミット㈱が支援する山梨県丹波山村の森林整備によって出た木材も活用されている。

豊島区内「赤ちゃん木育おもちゃセット」の寄贈先団体等一覧

参加団体一覧	
1	特定非営利活動法人 おおきな木
2	特定非営利活動法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
3	もくいくひろばらばん
4	区民ひろば 朋有
5	豊島区民生児童委員協議会 としま子育てサロン池袋西地区 ぴよぴよ
6	豊島区民生児童委員協議会 としま子育てサロン池袋東地区 つくしんぼ
7	豊島区民生児童委員協議会 としま子育てサロン高田地区 たんぼぼ
8	豊島区民生児童委員協議会 長崎第二地区民生委員児童委員協議会
9	社会福祉法人 豊島区社会福祉事業団 西巣鴨さくらそう保育園
10	池袋第二保育園
11	池袋第三保育園
12	高南保育園
13	子育てインフォメーション
14	高松第二保育園
15	西部子ども家庭支援センター
16	東部子ども家庭支援センター

## 5) 東日本大震災復興支援事業

## ①東日本大震災長期復興支援 「海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画」

平成23年3月11日の東日本大震災で壊滅的被害を被った名取市沿岸の海岸林約100haの復興を行うため、被災農家で組織された「名取市海岸林再生の会」と連携・協力して事業に取り組んでいる。具体的には、国の復興計画に沿いながら、県・市とも協定を結んだ上で復興再生に必要な苗木の育苗、海岸への植栽、下刈り等の保育まで一貫施業を担う。平成23年から10ヵ年の計画で、名取市民の「生活インフラ」として海岸林を再生させるべく、被災農家の雇用と生計支援も伴う形でプロジェクトを実施している。

今年度の特記事項として、名取市海岸林再生の会の高品質苗は、宮城県山林種苗品評会で最優秀賞を受賞し、全国品評会にノミネートされることになった。「苗半作」の言葉通り、植栽の成否は苗次第であり、同会の堅実な取り組みがますます評価を高めている。

## 【平成23年以降6年間の総括】 7つのシステムを確立した。

1. 官民協働の大規模協定締結 (約100ha。国・県・市・共有林)
2. 大規模苗木供給体制 (宮城県内必要本数600万本中、生産目標50万本)
3. 地元に雇用創出 (2033年までに約11,400人の雇用計画 2016年実績:1,215人)
4. 効率的な一貫施業の実施体制 (育苗～植栽～育林)
5. 低コスト林業 (自家生産の育苗は、購入より低コスト)
6. 市民参加の実現 (2016年実績:ボランティア1,800人、視察160人、報告会3,800人)
7. 民間活力・民間資金導入 (寄附金目標額10億円)

## 【平成29年年3月現在 累計実績】

- 協定締結面積 96.62ha  
内訳:国有林:2.91ha、県有・市有林:89.98ha、内陸防風林共有林等:3.74ha  
\*2016年度に内陸防風林市有林1.78haの支援を追加、植栽を完了した。  
\*ただし、協定区域内の生物多様性配慮ゾーン・サイクリング道・作業道・法面・防風垣などには植栽できないため、実際の植栽可能面積は65ha前後となる見通し。
- 植栽完了面積 36.73ha (2016年:11ha)  
\*2012年3月の初播種から2年の育苗を経て、初植栽は2014年4月。  
\*2014年:15.67ha、2015年:10.06ha、2016年:11.00ha、(2017年:13.66haを計画)
- 植栽完了本数 191,303本 (2016年:56,037本)
- 植栽活着率 平均98.2% (\*2014年:98.4%、2015年:98.0%、2016年:98.3%)  
\*宮城県産マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ、宮城県産精英樹クロマツ等
- 総雇用総数 4,668人 (8時間/日人)  
\*育苗、植栽、施肥、下刈、除伐、各種工事で、2033年までに約11,400人の雇用計画  
\*参考:2014年:1,402人、2015年:1,206人、2016年:1,215人

- 活動報告会・講演会 累計 153 回開催 23,517 人聴講 (2016 年 : 26 回、3,893 人)
- ボランティア参加者 累計 5,118 人 (2016 年 : 1,800 人)
- 視察者数 累計 2,151 人 (2016 年 : 183 人)
- 国内メディア掲載・紹介 192 回 (2016 年 : 20 回)
- 海岸林ホームページブログ更新 1,400 回 (ほぼ毎日更新中)



## ② 日本大震災被災地域における「森のつみ木広場」活動

東日本大震災により生活に制限を強いられている子どもたちの心を開放する場をつくること。つみ木を通して自然とふれあえる場を提供すること。また広場を開催することで、地域の人たちがつながっていくことを目的として、平成23年(2011年)より被災地域における「森のつみ木広場」活動を開始した。平成24年からはオルビス㈱の支援を受け、6年間、開催を継続している。

平成28年度は主に保育園等、子どもたちの教育に関わる施設や団体より依頼を受け、宮城県・福島県の子どもたちを対象につみ木のワークショップを合計5回実施した。今後は、それぞれの地域独自の活動として開催されていくことを目指していく。

開催日	開催先
8月8日	すくすくキャンプ (福島県猪苗代町)
9月17日	鮎立児童館 (宮城県気仙沼市)
9月17日	赤岩児童館 (宮城県気仙沼市)
10月27日	前沢保育所 (宮城県気仙沼市)
10月28日	ふたば保育園 (宮城県気仙沼市)

## 6) 熊本地震被災地支援

### ～地元農業復興に国際協力の経験を活かしたボランティア協力～

平成28年4月4日に発生した熊本地震の後、被災地支援募金の受付を開始し、全国から寄附が寄せられた。オイスカ西日本支部と熊本県推進協議会が中心となり現場のニーズを調査し、西原村農業復興ボランティアセンター（以下、農ボラセンター）と連携した支援をおこなった。震災直後はボランティアの受け皿となる自治体のボランティアセンターでは、農業復興に関わる作業に人を派遣できないことから、農家の要請に応じ畑の草刈りや作物の収穫などを手伝える活動を実施した。

当法人では、6月下旬から9月下旬にかけて、ボランティアの受入れや農ボラセンターとの調整を担うスタッフを現地に派遣し、主に各町内の共有地や河川敷などの草刈りを実施したほか、避難所生活が長引き、農地の管理に手が回らない農家の畑で除草や管理作業を行うなど、延べ222名を受入れ活動をおこなった。被災農家の方々からは「これ以上農業を続けられないと、諦める気持ちになっていたが、ボランティアの皆さんのおかげでもう一度再起をかけるという気持ちになった。」といった感謝の言葉が寄せられた。今後も国内においても国際協力活動で培った経験をもとに、さまざまな活動をおこなっていきたい。





## 2. 国際交流・連携促進

### 1) 国際会議等の開催

「富士山の森づくり」駐日外国公館関係者との現場活動体験

開催日：平成 28 年 6 月 4 日(土)

実施場所：山梨県南都留郡鳴沢村字富士山 8 5 4 5-1 (標高約 1, 6 0 0 m)

参加者数：176 名 (うち駐日外国公館関係者：5 か国 10 名)

成 果：

海外で取組んできた地域開発などで関係のある駐日外国公館から大使を含めて 5 か国 10 名の参加を得て実施した。当日は、シカの食害を防ぐためにシカ害対策ネット張りを行った。森林保全活動の実際の作業に参加しながら交流を図る機会を通じて、オイスカの取り組む環境保全活動への理解促進に繋げることができた。

### ②ミャンマー開発フォーラム (オイスカデー 2016)

開催日：平成 28 年 7 月 23 日 (土)

会場： 駐日ミャンマー連邦共和国大使館 エヤワディーホール

参加者数： 153 名

基調講演 田中敏裕氏 元国連開発計画 (UNDP) ミャンマー事務所長

「ミャンマーにおける人間中心の開発：和と豊かさと幸せを求めて」

パネルディスカッション ～ミャンマーの発展に迫る～

パネリスト：① 公益信託 経団連自然保護協議会企画部会長 石原 博

② 名古屋学院大学 国際文化学部国際協力学科 教授 長田こずえ

③ 元国連開発計画ミャンマー事務所長 田中 敏裕

④ オイスカ理事 渡邊 忠

成 果：

オイスカが、ミャンマーの中部乾燥地帯に農林業研修センターを開設してから本年度 20 年を迎えることから、経済発展やその政治動向などが国際的に注目を浴びている同国に焦点をあて開催した。駐日ミャンマー連邦共和国大使館の全面協力により会場が提供され、トゥレイン・タン・ズイン大使閣下は挨拶で、オイスカの長きにわたる農業分野への支援に感謝の意を述べ、来年マングレー管区に開設される新農業研修センターに期待を寄せ、持続可能な発展のために農業は欠かすことができない非常に重要な分野であることを協調。基調講演では、同国の地域ごとの識字率や貧困の度合いなどを示し、オイスカの活動地はより支援が必要な場所であり、その取り組みには意義があるとし、今後の発展的な活動としてリーダー育成に重きを置いた拠点開設に着手していることを高く評価した。また、パネルディスカッションでは、各専門分野の視点からミャンマーの発展のさらなる可能性と、各セクターからの継続的な働きかけや日本の役割などを議論した。

③環境教育を基盤とした青少年のふるさとづくりに関する国際会議

開催日：平成 28 年 10 月 5 日(水)～6 日(木)

会 場：① 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室（東京都渋谷区）  
② 衆議院第一議員会館 国際会議室（東京都千代田区）

出席者数：16 カ国 51 名

成 果：

地球上の様々な場所で発生している自然災害などの課題に対して、持続可能な取り組みを進めていくための具体的な行動を促すことを目的とした国際会議を実施し、各国からの参加者と共に議論を行った。国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた世界各国からの提案がなされ、議論された。

また、オイスカが進める「子供の森」計画が 25 周年を迎え、記念式典をフィリピンにて実施したことの報告と今後の展開についての議論がなされた。

同会議の冒頭には磯崎陽輔農林水産副大臣も出席者への挨拶に駆け付け、このような議論が国を横断して広がることへの期待がうかがえた。

出席者：

国名	氏名	職業
アゼルバイジャン	エリツィン・ナシーリ	政府選挙管理委員会首席顧問
アゼルバイジャン	セイファディン・サマド・アサド	医師
アゼルバイジャン	アスム・アディベク・カスモフ	会社社長
バングラデシュ	ヌルル・アラム	会社社長
バングラデシュ	モハマト・エクティアル・カーン	オイスカバングラデシュ会長
ブルネイ	アブドウル・ラティフ・チュチュ	オイスカブルネイ会長
香港	黒田祐之進	オイスカ香港カレッジ理事長
香港	江子榮	公認会計士
香港	石見 康雄	オイスカ香港総局事務局長
香港	陳 加朗	香港総局事務局長助手
インド	M・アラビンド・バブ	オイスカ南インド事務所所長
インド	A・S・マヘスワリ	オイスカ南インド支局会員
インド	ビンセント・パニ克蘭ガラ	弁護士
インド	ナラペルマル・ピライ	オイスカタミルナド支局書記
インド	V・P・サシダーラン	元銀行員
インド	C・P・ラムダス	オイスカ南インド支局会員
インド	P・チャンドラ・ミシュラ	オイスカオディシャ支局会長
インド	フォウジア・ムバシール	オイスカ南インド支局会員
インドネシア	スタルト	オイスカインドネシア総局会長
インドネシア	カイディール	インドネシア国国会議員
インドネシア	ノバ・サリ・シャリフディン	オイスカインドネシア総局会員
日本	中野 良子	オイスカ・インターナショナル総裁
日本	廣野 良吉	成蹊大学名誉教授
日本	中野 利弘	公益財団法人オイスカ理事長
日本	中野 悦子	公益財団法人オイスカ会長
日本	永石 安明	公益財団法人オイスカ事務局長
日本	木附 文化	オイスカ ミャンマー駐在代表
マレーシア	アズハル・アブドウル・マナフ	MARA 公団役員

マレーシア	モハメド・カマル・イスマイル	MARA 公団役員
メキシコ	J・M・アテラ・エチェバリア	会社経営
メキシコ	エクトル・ベイティア・ペレス	ロータリークラブ会員
モンゴル	トゥブデンドルジ・トゥメン	オイスカモンゴル総局会員
パキスタン	ファティマ・ジャベイド	日本語教師
パキスタン	サジド・イフティカル	旅行社役員
パキスタン	ジャベド・イクバル	会社経営
パキスタン	ラシド・マムード	会社経営
パラオ	ジョニー・P・キンガワ	会社経営
パラオ	カリストゥス・ンギルトウロン	オイスカパラオ総局会員
パラオ	リシェル・トリニダト	会社役員
フィリピン	ジェット・C・ロハス	会社経営・イロイロ州議会議員
フィリピン	モセス・T・マカリナオ	南ルソン州大学准教授
フィリピン	レイ・アキノ	内科医
フィリピン	ロバート・ベレザ	サンラファエル市長
スリランカ	A・M・C・K・B・アラハコーン	オイスカスリランカ事務所長
スリランカ	D・W・B・W・H・ムディヤンセラゲ	会社員
スリランカ	プレミラ・ジャヤスンダラ	オイスカスリランカ総局副会長
スリランカ	ウプル・S・ワニガスリヤ	会社経営
台湾	陳 焯松	財) 中正農業科技公益基金會理事長
台湾	林 榮彬	財) 台北病理センター理事長
タイ	アリ・チョングリア	ビジネスマン
タイ	プラヤット・サバンスーク	オイスカ・タイ総局スタッフ

#### ④国際協力の日のつどい（オイスカ創立記念日行事）

開催日：平成 28 年 10 月 6 日(木) 14:30～18:00

会 場：衆議院第一議員会館 大会議室/多目的ホール

参加者数：272 名

講 演： 渡辺利夫 拓殖大学学事顧問

『日本の国際協力の起源』

成 果：

1954 年、開発途上国を支援する国際機関「コロンボプラン」加盟の閣議決定がなされた 10 月 6 日は、のちに「国際協力の日」として制定された。同時にその日はオイスカの創立記念日にあたることから同行事を開催し、オイスカが推進している国際協力活動への理解を深め、日本の国際協力 NGO として果すべき役割について共に考える場として、活動報告及び、懇親会を通じて意見交換を図った。

#### ⑤東京フォーラム（駐日外国公館関係者との国際協力推進意見交換会）

開催日：平成 28 年 12 月 1 日(木) 12:00～14:00

会 場：衆議院第一議員会館 国際会議場/第一会議室

出席者数：11 カ国 12 名

成 果：

11 カ国の大使および大使館関係者を迎え開催された意見交換会。オイスカから最近

の状況報告として、35 カ国に及ぶネットワークを通して繰り広げられている人材育成、環境保全活動などが紹介された。また、出席外交団各国での活動に加え、パプアニューギニアでの活動を詳しく紹介し、各国大使館関係者と意見交換を行った。

今回参加した駐日キルギス大使のチングス・アイダルベコフ閣下からはオイスカ活動のまだ及んでいない国ながら、さらなる取り組みへの期待が表明された。

## ⑥国際森林デー2017 みどりの地球を未来へ「海の森と国際交流」

開催日：平成29年3月25日(土) 13:00~17:00

主催：国際森林デー2017 中央行事 海の森イベント実行委員会

[公益財団法人オイスカ、公益社団法人国土緑化推進機構、公益財団法人森林文化協会  
特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会、林野庁]

共催：東京都港湾局

後援：外務省、国土交通省、環境省、美しい森林づくり全国推進会議、朝日新聞社

産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK、日本民間放送連盟

協力：旅工房、東京木材問屋協同組合、株式会社ファミリーマート

会場：第一部 東京都「海の森」(東京都江東区青海3丁目地先)

第二部 東京木材問屋協同組合 木材会館(東京都江東区新木場1-18-8)

参加者数：350名

成果：

森林の大切さを知る日として、国連が定めた「国際森林デー」の記念行事として開催し、駐日外国公館関係者や外国人留学生、日本人の親子らが参加した。当日は昨年までに植樹をした苗木の周辺整備や「海の森」の散策をおこなった。また会場を移して映像やゲームなどビジュアルを通して国際親善交流を図った。

## 2) 海外協力機関との交流

### マレーシアにおけるビジネスフォーラム2016

期間：平成28年10月23日(日)~26日(水)

訪問国：マレーシア

訪問者：永石安明、菅原弘誠

目的：

1. ビジネスフォーラムでの日本会員企業とのセミナー参加
2. マレーシア政府及び、カウンターパート関係者等との意見交換等

成果：

マラ公団との共催で開催し、日本からは中小企業約22名が参加した。5回目の実施となる今年は、日本企業とマレーシアの中小企業がトレンガヌ州のクアラトレンガヌにおいてビジネスマッチングを行い、今後の協働の可能性について模索をした。過去の開催よりもマレーシア側に積極的な姿勢が見られるが、過去にマッチングを行った企業の成功事例がなかなか出てこないという現状もあり、フォーラムを離れた場所でのフォローアップが引き続き必要な状況が続いている。

## 5. 収益事業

### 総括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の50%を公益目的事業に資した。

#### 1. 駐車場等賃貸収益

(1) 所在地：福岡県福岡市内浜一丁目 400.00 m<sup>2</sup>

貸与先：三菱UFJリース（株）

※事業用定期借地権設定契約（平成23年7月28日から満20年）

#### 2. 農場管理受託収益

(1) 委託場所：愛知県豊田市勘八町（豊田市旧畜産センター） 58,371 m<sup>2</sup>

管理棟及び農場等の管理

委託者：豊田市

※業務委託契約

#### 3. 住宅賃貸等収益

(1) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

① 賃貸物件名：オイスカハウス永福町 752.20 m<sup>2</sup> (25戸分賃貸面積)

管理委託先：京王不動産（株）

※賃貸運営管理業務委受託契約

② 付帯設備太陽光発電 売電収益

売電先：東京電力株式会社

(2) 所在地：東京都杉並区和泉二丁目17-5

賃貸物件名：オイスカ国際協力総合センター1階 329.81 m<sup>2</sup>

貸与先：株式会社ディアローク

※普通賃貸契約



## 6. 組織の運営

平成 28 年度においては評議員会を 1 回、理事会を 4 回開催し、健全な運営に努めた。会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

### 1. 会議の開催

#### (1) 評議員会

##### ① 平成 28 年度定時評議員会

日時：平成 28 年 6 月 21 日(火) 12:00～14:00

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 平成 27 年度事業報告及び決算書類(案)及び監査報告  
2. 平成 28 年度常勤役員報酬の総額(案)について  
3. オイスカ本部事務所 1 階フロアー賃貸借契約(案)について  
4. その他(報告事項等)

#### (2) 理事会

##### ① 平成 28 年度第 1 回 理事会

日時：平成 28 年 6 月 2 日(木) 12:00～14:00

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 平成 27 年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告  
2. 平成 27 年度新規賛助会員の承認(案)について  
3. 熊本地震支援金の募金に関わる募金目論見書(案)について  
4. 平成 28 年度資産運用方針の一部変更(案)について  
5. 参与の委嘱(案)について  
6. オイスカ本部事務所 1 階フロアー賃貸借契約(案)について  
7. 定時評議員会の議案追加について  
8. 「子供の森」計画積立資産の限度額変更について  
9. その他(報告事項等)

##### ② 平成 28 年度臨時理事会(書面審議)

日時：平成 28 年 8 月 5 日

日時・場所：法人法第 197 条(同第 96 条に準ずる)に定める理事会の決議の省略による。(オイスカ定款第 52 条の規定による)

議題：平成 28 年度臨時理事会(書面審議)について

議案：(学) 中野学園学校債の購入(案)について

##### ③ 平成 28 年度第 2 回理事会

日時：平成 28 年 11 月 10 日(火)12:00～13:30

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 平成 29 年度予算編成の方針(案)について  
2. ストレスチェック制度実施規程(案)について  
3. その他(報告事項等)

- ④ 平成 28 年度第 3 回理事会  
日時：平成 29 年 3 月 9 日(木)12:00～14:00  
場所：衆議院第一議員会館会議室  
議題：1. 平成 28 年度補正予算（案）について  
①特定寄付金の募集に関わる募金目論見書概要(案)  
②特定資産の積立・取崩計画変更(案)  
③借入金限度額の設定(案)  
④資産運用方針及び計画(案)  
2. 育児休業規則の一部改正(案)について  
3. 介護休業規則の一部改正(案)について  
4. 平成 29 年度定時評議委員会の開催(案)について  
5. その他（報告事項等）



## 2. 役員

平成 29 年 3 月 31 日現在における当法人の役員等は次の通りである。

会 長

中野悦子 オイスカインターナショナル 副総裁

## (1) 評議員

No.	氏名	役 職
1	荒木光弥	(株)国際開発ジャーナル社 代表取締役会長
2	岡田康男	弁護士
3	岡本隆之	(公財)国際文化交友会 常務理事
4	神野重行	三重産業(株) 代表取締役
5	篠塚 徹	拓殖大学北海道短期大学 学長
6	進士 五十八	福井県立大学 学長
7	杉原弘泰	弁護士
8	常盤百樹	四国電力(株) 相談役
9	中村利雄	(公財)全国中小企業取引振興協会 会長
10	廣野良吉	成蹊大学 名誉教授
11	ペマ・ギャルポ	拓殖大学 国際日本文化研究所 教授

## (2) 代表理事

No.	氏名	役 職
1	中野利弘	理事長
2	廣瀬道男	副理事長

## (3) 業務執行理事

No.	氏名	役 職
1	永石安明	専務理事
2	松井孝司	常務理事

## (4) 理事

No.	氏名	役 職
1	新屋敷道保	オイスカ沖縄事務所 所長
2	杉浦正行	前安城市長
3	樋泉克夫	愛知県立大学名誉教授
4	榊本晃章	(一社)日本動力協会 会長
5	松尾新吾	九州電力(株) 相談役
6	渡 邊 忠	国際連携担当

## (5) 監事

No.	氏名	役 職
1	神山敏夫	税理士・公認会計士
2	鈴木稔充	弁護士

(50 音順)

## 組織の運営

### (6) 顧問

No.	氏名	役職
1	太田 猛彦	東京大学名誉教授
2	川口 文夫	中部電力(株) 顧問
3	小林 喜光	(公社)経済同友会 代表幹事
4	榊原 定征	(一社)日本経済団体連合会 会長
5	佐藤 忠義	四国経済連合会 相談役
6	新木 富士雄	北陸電力(株) 相談役
7	畝川 寛	中国電力(株) 常務取締役
8	長岡 實	(公財)資本市場研究会 顧問
9	西垣 昭	元大蔵省事務次官
10	三村 明夫	日本商工会議所 会頭

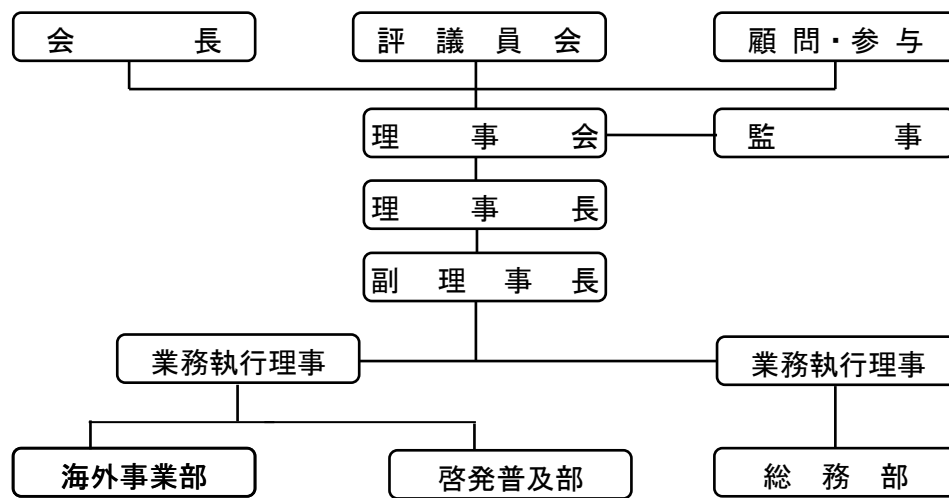
### (7) 参与

No.	氏名	役職
1	石井 淑雄	四国支部 会長
2	逢見 直人	日本労働組合総連合会 事務局長
3	岡崎 昌三	関西支部 会長
4	小川 信也	岐阜県支部 会長
5	落合 偉洲	静岡県支部 会長
6	金丸 信吾	山梨県支部 会長
7	亀井 昭伍	宮城県支部 会長
8	木島 正芳	元東京入国管理局長
9	北村 正博	長野県支部 会長
10	久和 進	富山県支部 会長
11	黒柳 俊之	元(独)国際協力機構 理事
12	小林 泉	大阪学院大学国際学部 教授
13	小林 孝雄	関内イノベーションイニシアティブ(株) 監査役
14	佐藤 尚文	西日本支部 会長
15	茂田 和彦	(公財)大日本山林会 監事
16	杉下 恒夫	(一財)国際開発機構 理事長
17	高木 廣治	広島県支部 会長
18	出口 裕康	(公財)損保ジャパン日本興亜環境財団 専務理事
19	土井 泰彦	元文教大学教授
20	中村 陽子	NPO 法人メダカのがっこう 理事長
21	宮嶋 嘉則	愛媛県支部 会長
22	深山 彬	石川県商工会議所連合会 会頭
23	山下 雅子	社会保険労務士
24	横山 清	北海道支部 会長

(50音順、平成29年3月31日現在)

### 3. 事務機構及び職員

#### (1) 機構図



- ・ 海外開発協力事業(公 1)
- ・ 「子供の森」計画事業(公 2)
- ・ 人材育成事業(公 3)
- ・ 啓発普及事業(公 4)

〈平成 29 年 3 月 31 日現在〉

#### (2) 職員

平成 29 年 3 月 31 日現在における本法人職員は次のとおりである。

事務所	職員数
本部 (海外赴任者含む)	60
西日本研修センター	15
中部日本研修センター	12
四国研修センター	8
関西事務所	3
地方組織	29
合計	127

平成28年4月1日～平成29年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額  
会員の動向

	期首会員数		期末会員数		期首と期末の増減数	
	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人
本部直轄	206	41 165	221	46 175	15	5 10
広島県支部	82	42 40	80	42 38	-2	0 -2
北海道支部	68	39 29	65	37 28	-3	-2 -1
宮城県支部	123	52 71	143	57 86	20	5 15
首都圏支部	324	152 172	358	150 208	34	-2 36
山梨県支部	120	51 69	114	49 65	-6	-2 -4
長野県支部	162	70 92	160	68 92	-2	-2 0
静岡県支部	271	91 180	260	92 168	-11	1 -12
愛知県支部	876	239 637	833	239 594	-43	0 -43
岐阜県支部	141	57 84	123	36 87	-18	-21 3
富山県支部	150	74 76	145	72 73	-5	-2 -3
関西支部	82	30 52	88	31 57	6	1 5
四国支部	712	160 552	799	164 635	87	4 83
愛媛県支部	148	40 108	137	36 101	-11	-4 -7
西日本支部	849	350 499	853	328 525	4	-22 26
合計	4,314	1,488 2,826	4,379	1,447 2,932	65	-41 106

会費入金額(千円)

	平成27年度入金額		平成28年度入金額		前年度との 差額	前年比
	法人 個人	合計	法人 個人	合計		
	2,440 3,180	5,620	2,440 3,180	7,219	1,599	128.5%
	2,240 830	3,070	2,240 830	3,045	-25	99.2%
	1,600 580	2,180	1,600 580	2,060	-120	94.5%
	3,570 1,520	5,090	3,570 1,520	5,234	144	102.8%
	12,670 3,510	16,180	12,670 3,510	16,760	580	103.6%
	2,550 1,510	4,060	2,550 1,510	3,830	-230	94.3%
	2,820 1,700	4,520	2,820 1,700	4,524	4	100.1%
	5,380 3,190	8,570	5,380 3,190	8,157	-413	95.2%
	12,690 10,790	23,480	12,690 10,790	23,220	-260	98.9%
	2,080 1,500	3,580	2,080 1,500	3,441	-139	96.1%
	3,710 1,500	5,210	3,710 1,500	5,244	34	100.7%
	2,540 890	3,430	2,540 890	3,591	161	104.7%
	7,720 11,170	18,890	7,720 11,170	20,455	1,565	108.3%
	1,400 1,760	3,160	1,400 1,760	3,020	-140	95.6%
	16,500 10,300	26,800	16,500 10,300	26,605	-195	99.3%
合計	79,910 53,930	133,840	79,910 53,930	136,405	2,565	101.9%

## 附属明細書

平成 29 年 6 月  
公益財団法人オイスカ

なお、平成 28 年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。